



# 1. Japanese Garden BEST100

<b><u>Introduction:Process of Abstract KARESANSUI Garden</u></b> .....	<b>1</b>
<b>1.1 <u>Classic Garden ;Best 58</u></b> .....	<b>5</b>
<b>1.2.1 Modern Garden(Mirei Shigemori);Best 35</b> .....	<b>58</b>
① <b><u>Japanese Abstract Dry Garden</u></b> .....	<b>59</b>
② <b><u>Space Constitution Beauty Garden</u></b> .....	<b>65</b>
③ <b><u>Geometrical Garden</u></b> .....	<b>74</b>
④ <b><u>Tea Ceremony Garden</u></b> .....	<b>85</b>
<b>1.2.2 Modern Garden(Another gardener);Best 7</b> .....	<b>93</b>

# 全国の庭(京都市は決頁)(庭園No.・庭園名・記載P)

## 兵庫県

- No54 神宮寺 54 P
- No60 村上家 60 P
- No81 斧原家 76 P
- No85 清原家 80 P
- No86 住吉神社 81 P
- No89 石像寺 82 P

## 岡山県

- No49 岡山後楽園 51 P
- No61 小倉家 60P
- No87 天籟庵 81・92 P
- No88 旧友琳会館 82 P
- No93 旧北岡家 93 P

## 鳥取県

- No30 深田家 35 P
- No95 足立美術館 96 P

## 島根県

- No16 萬福寺 21P
- No31 小川家 36P
- No72 村上家 68・78・89 P
- No73 小河家 69・90・91 P

## 広島県

- No62 前垣家  
61・66・77 P
- No83 桑田家 79・88 P

## 山口県

- No14 普賢寺 19 P
- No15 常栄寺 20P
- No51 桂家 52 P
- No66 漢陽寺  
64・72・83P
- No97 漢陽寺 98 P

## 熊本県

- No13 碧巖寺 18P

## 大分県

- No5 龍門寺 9P
- No53 久留島家 53 P

## 徳島県

- No36 旧徳島城 41P
- No52 阿波国分寺 53P

## 香川県

- No40 栗林公園 44P
- No92 増井家 85・86P

## 愛媛県

- No11 保国寺 16P
- No70 岡本家 67P
- No71 織田家 68P
- No82 越智家 78・87P

No 98 ●●庭 (中国・大連) 99 P

## 滋賀県

- No18 旧秀隣寺 23 P
- No32 赤田家 37 P
- No43 福田寺 47 P
- No44 青岸寺 47 P
- No47 玄宮園 50 P
- No48 楽々園 50 P
- No69 瑞応院 67・79 P

## 福井県

- No25 朝倉遺跡 30 P
- No26 三田村家 31 P

## 石川県

- No100 鈴木大拙館 101P

## 岩手県

- No4 毛越寺 8P

## 長野県

- No58 百瀬家 57P
- No64 興禅寺 62 P
- No99 遠照寺 100 P

## 東京都

- No46 小石川後楽園 49 P
- No50 芝離宮 52 P

## 神奈川県

- No7 瑞泉寺 11P

## 静岡県

- No57-1 摩珂耶寺 56 P
- No57-2 大福寺 56 P
- No57- 3 龍潭寺 56 P
- No57- 4 実相院 56 P

## 愛知県

- No37 名古屋城 42 P

## 岐阜県

- No6 永保寺 10 P
- No24 岐阜城 29 P

## 三重県

- No19 北畠神社 24P
- No75 某家 71P

## 奈良県

- No1 東院 5 P
- No2 宮跡 6 P
- No23 願行寺 28 P
- No79 春日大社 74

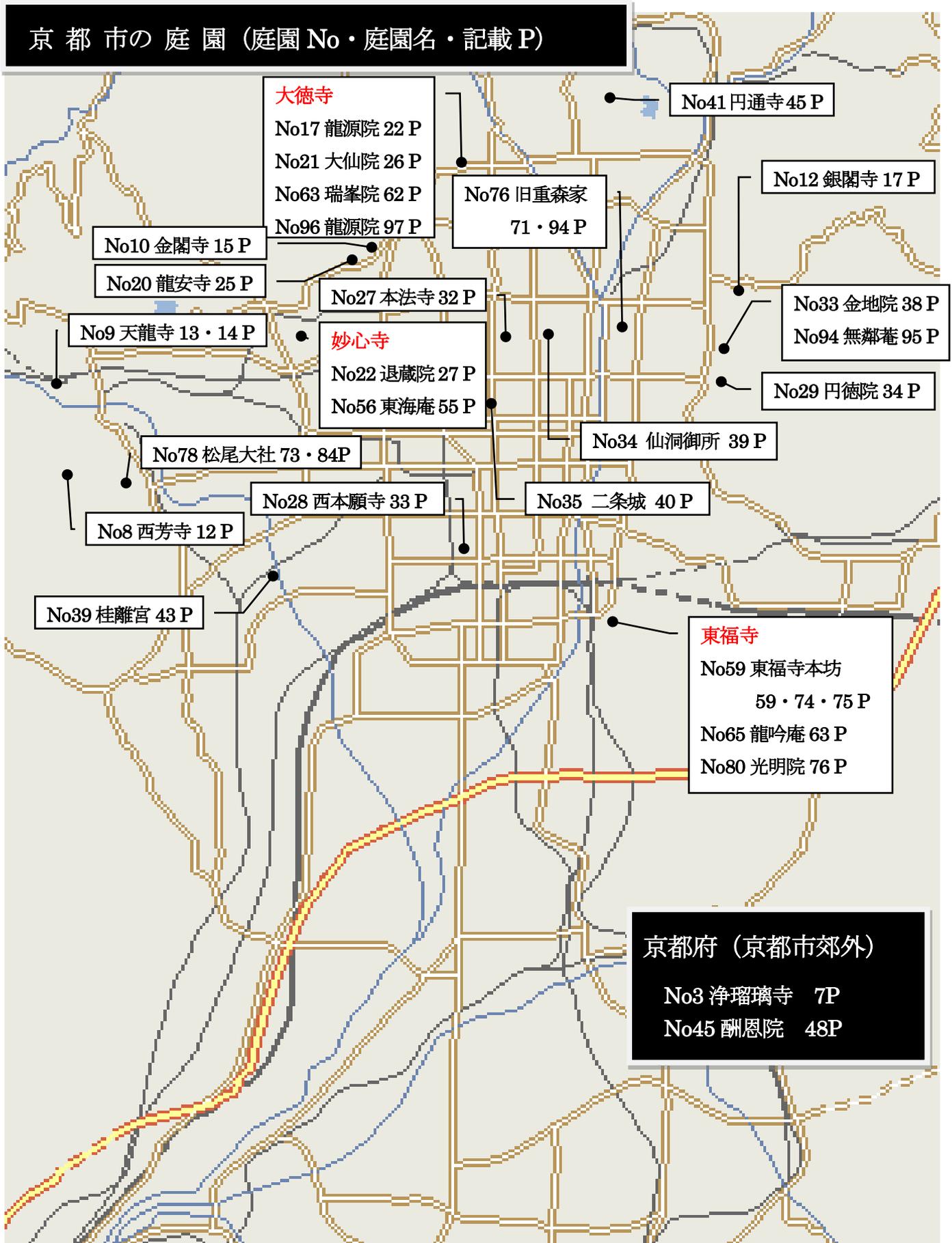
## 大阪府

- No42 普門寺 46P
- No67 岸和田城 65・77 P
- No74 香里団地公園 70 P
- No77 豊國神社 72 P
- No84 四天王寺学園 79 P
- No91 井上家 85 P

## 和歌山県

- No38 和歌山城 43 P
- No55 粉河寺 55 P
- No68 西禅院 66 P
- No90 福智院 83・84 P

京都市の庭園 (庭園No・庭園名・記載P)



京都府 (京都市郊外)  
 No.3 浄瑠璃寺 7P  
 No.45 酬恩院 48P

## 序論：日本庭園の抽象枯山水庭園へのプロセス

### 1 日本庭園は自然石を使用した空間構成

日本庭園の素材は自然物であり、しかもその出来上がった造形も、何らかの意味において自然を写している。しかし、単に自然の造景を写しただけでは箱庭的な自然のコピーであり、芸術とは言い難い。そこで、日本庭園の造景は自然の中のポイントとなる要素を抽象化するのである。自然を写しながらも抽象化された自然だ。ここでは世界的な基準に照らして芸術と言えるためには、高度に抽象化される必要があると考へ、抽象化について定義する。

庭園が芸術であるためには、自然の素材を使いながらも自然を超えた形を創造すること、言い換えるなら、あるがままの自然ではなく、人が感じた自然、単なる自然を抜け出した、自然を超えたものを創造することが必要である。**言い換えるならば、「自然を一度解体して、作者による新しい造景を再構築」**することである。「造園」や「いけばな」のように造形物が自然に近い分野の創作活動は、素材は自然であっても、造形は自然を超えたものにする必要がある。出来上がった造形物に感動を覚える理由は、**生の自然の美しさにあるのではなく、その造形物に創造性があるからである。**(抽象度は、象徴と抽象庭園に大区分し、更に2区分した。詳細は [3 Theoretical kARESANSUI](#) の4~6P)。

**2 庭園選定基準：**①時代の変化に応じて新しい庭園の発生から成熟するプロセスを確認する。②自然に寄り添った癒される庭も記載するが、主に石組を中心とした芸術的庭園を選択。③現代作家は重森の他に7名。

### 3 日本庭園は各種の庭園形態があるが、大まかに5形態に別けられる。

日本庭園にもヨーロッパの庭園(フランスのベルサイユ宮殿)のような池庭もある。例えば東院(奈良市)・毛越寺(平泉)・二条城(京都市)等であるが、何れも王侯貴族、将軍、大名、財閥などの権力者の庭で例外的な庭だ。日本庭園BEST100庭の対象は禅寺や一般市民が所有することが出来る庭で、以下項目の③④⑤を中心にした。

①道教の影響の不老不死への願望の庭：(鶴亀蓬莱の庭)

②大きな池庭のある覇者の庭：(貴族の極楽浄土の庭・将軍の庭・大名の庭・財閥の庭・元勳の庭)。

③禅宗の影響による「抽象枯山水庭園」；余白の多い抽象的配石による、考えさせられる庭。

④比較的巨石を使った「空間構成美の庭」；躍動的な構成の庭

⑤幾何学模様の庭：小堀遠州に始まり重森三玲が完成させた「直線・屈曲線・曲線・曲面・色彩の庭」

(庭園の形態についての詳細は [3 Theoretical kARESANSUI](#) の1~3P 参照)

### 4 時代の影響による造形の変化

①奈良時代から平安時代(AD710~1185)：庭園の造形は自然の風景をデフォルメ(表象)した洲浜(添付写真 1)、荒磯(添付写真 2)、遣水が主体。但し、AD750年頃作られた「須弥山石組」は中国の唐の影響が考えられる。

②鎌倉時代(AD1185~1333)に入ると禅宗の影響で「水墨画の鑑賞」の影響からか、立体的石組が多くなる。その代表は「龍門瀑」であるが、雛壇状の山畔への石組だ。代表的な庭園は西芳寺(添付写真 3)、天龍寺など。

③室町時代(AD1336~1573)の鹿苑寺(添付写真 4)に代表されるように、本格的に護岸への石組が始まる。

④室町時代の応仁の乱(AD1467~77)により京都は灰塵に化した。その結果、池泉庭園は勿論の事、大規模な庭園を作ることは不可能になった。禅寺では方丈の北側などに、石と砂による小さな庭が作られ、やがて、龍安寺(添付写真 5)が作られた。

⑤1603年徳川幕府が確立(AD1603~1868)すると、治安が安定し、経済的にも豊かな時代になり、大名による大池泉庭園が競って作られるようになった。その代表は京都の二条城庭園(添付写真 6)、徳島城庭園(GardenNo24)であるが、巨石・珍石による「護岸尽くし」の庭が生まれた。しかし、護岸の修景による造形はマンネリ化し、「脱護岸造形」が始まった。小堀遠州による金地院(添付写真 7)に代表される「護岸無き鶴亀島」である。枯山水であるから護岸は不必要になり、自由な形の鶴島、亀島が作られた。また芝離宮(添付写真 8)、栗林公園のように築山や山畔上への造形が生れ、更に玄宮園(彦根城)では池中への立石の分散配置などの空間構成美の庭が確立した。一方、江戸時代の抽象枯山水庭園にも見るべき発展があり、桂家(添付写真 9)、東海庵(添付写真 10)など優れた抽象枯山水庭園を生み出した。さらに江戸時代末期になるが、ダイナミックな

庭として阿波国分寺(徳島市)、粉河寺(紀の川市)、旧久留島家(大分市玖珠町)も生まれる時代であった。

⑥重森三玲(1896~1975)は日本庭園を大改革した(作庭歴約36年、作庭数約190庭。庭園実測数約360余庭。著述数75)。重森は日本庭園の大半を実測することで、古庭園の素晴らしさを再認識し、護岸無き枯山水庭園を東福寺(添付写真11)に確立した。一方、ヨーロッパ抽象主義のマチス・カンデンスキーなどから感化を受け(その源流は日本の琳派でもあるが)、近代的で簡素な直線、曲線、色彩の庭を岸和田城(添付写真12)・旧友琳会館などで創作した。

**上記に記述した庭園の写真例**



1 東院(AD750・奈良市);栗石による洲浜の造形



2 浄瑠璃寺(AD1107・京都府);荒磯の造形



3 西芳寺(AD1339・京都市);傾斜地に龍門瀑の造形



4 鹿苑寺(AD1397・京都市);護岸の本格的石組



5 龍安寺(AD1537・京都市);抽象枯山水庭園の確立



6 二条城(AD1626・京都市);護岸への石組の極致



7 金地院(AD1632・京都市);枯山水のため護岸不要



8 芝離宮(AD1686・東京都);脱護岸後の造形が築山に



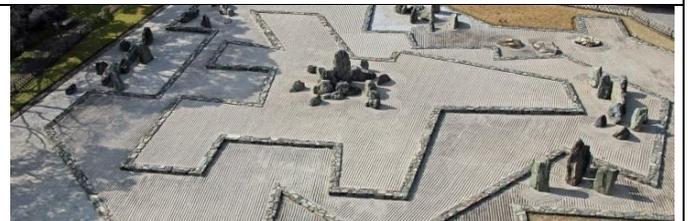
9 桂家(AD1712・防府市);江戸時代の龍安寺とも



10 東海庵(AD1814・京都市);江戸時代の龍安寺とも



11 東福寺(AD1939・京都市);護岸造形から自由な庭



12 岸和田城(AD1953・岸和田市);モダニズムの庭

# 1 Japanese Garden : Best100 (58+42)

## 1.1 Classic Garden : Best 58

時代ごとの特徴を表す庭園を 37 庭示す。

## 1.2 Modern Garden (Mirei Shigemori、他に 7 名の作家) : Best 42

重森三玲を中心とする現代作家の庭を 50 庭。なお重森三玲は多様化する庭園を 4 区分して示す。

### 1.1 Classic Garden : Best 50(Garden No1~No50) 58Gardens

#### Garden No1

東院(平城京)

Toin(Heijyokyo)

Nara Period

(AD750)

Nara City

Tel:0742-34-3931



初めての本格的な日本庭園であるが海洋風景の洲浜を抽象化した庭園。庭園は現代的感覚であり、このように抽象化度が高ければ、古い庭でもモダンである。



須弥山石組は日本庭園の石組としては初めてである。



曲水の庭での宴：平安時代に作られたこの庭は人工の川の縁に座って和歌を詠み、上流から酒の入った杯が流れてくるまでに、和歌を読んだ者が酒を飲むことが出来た。上級者が上流に座るので、多くの場合は上級者が酒を飲んでしまうが、時々余興として上級者が故意に和歌を遅く書き、盃をパスすることがあった。

この行事の源流は中国の河川で行われた禊祓（みそぎはらえ）の行事である。

## Garden No2

宮跡(平城京)

**Kyuseki  
(Heijoukyo)**

Nara Period

**(AD750)**

Nara City

Sanjo ouji



造形のポイント：洲浜の先端を象徴した形



細部を見ると入江があり舫い舟が係留されている様子を象徴している。



極楽浄土の庭: 栗石による洲浜と洲浜の先端にある岩で作った荒磯(ありそ)の庭。

### Garden No3

浄瑠璃寺

Joruri-ji Temple

Heian-Period

(AD 1107)

Kyoto Pref.

Kizugawa City

Kamo-machi Town

Tel: 0774-76-2390



平安時代の「作庭記」によると島の造形は以下のようにすべきと書かれている。

「大海の様は、先ず荒磯の様を立てるべきである。荒磯は岸のほとりには不恰好に突ったいくつかの石を立て、水際を基礎として立ち上がった石を、数多く沖のほうに立て続けて、その他にはなれ出た石も少々あるが良い。これはみな波のきびくかかる所で、石が洗い出された姿である。さて所々にずっと洲崎や白浜を見せて、松などを植えるべきである。」



「荒磯」の造形を先端方向から見ると、荒磯と洲浜の造形が理解できる。



仏教哲学の理想像である須弥山を石組した。

## Garden No4

毛越寺

Motsu-ji Temple

Heian Period

(AD1100)

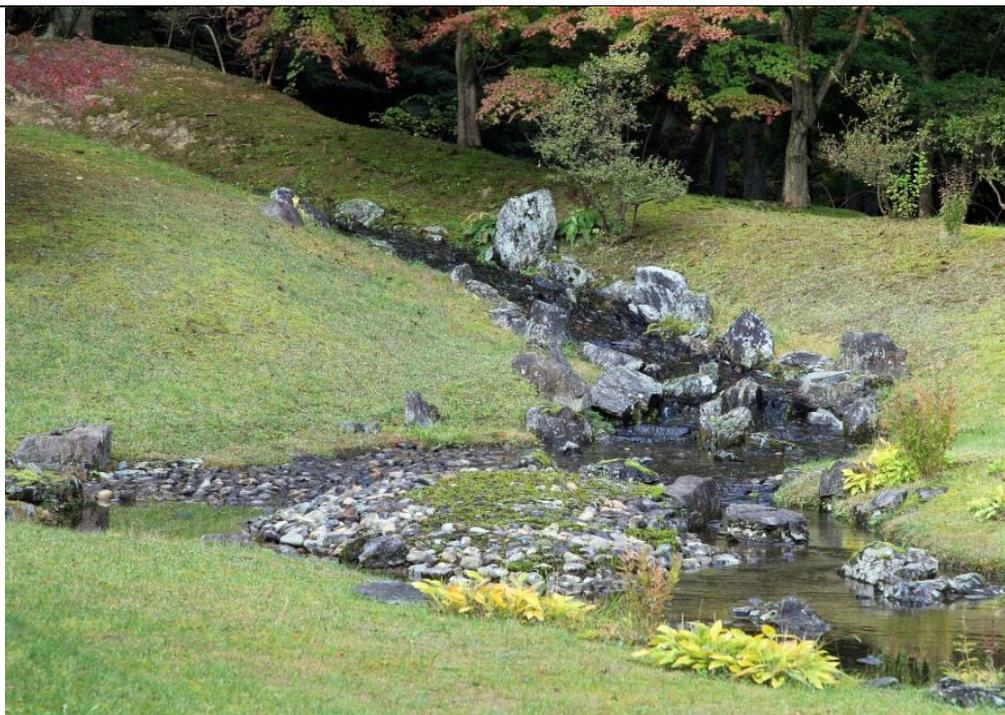
Iwate Pref.

Hiraizumi machi

Tel: 0191-46-2331



『作庭記』の中の島姿の様々をいう事の条で「干潟様は汐の干あがりたる跡の如く半ば現れ、半ば水に浸るが如くにして、自ら砂々見ゆべきなり。樹はあるべからず。」とあり、海岸の風景として、干潮時に島が海上に現れた様を再現している。



「Z」字型に造形された遣水

## Garden No5

龍門寺

Ryumon-ji

Temple

Kamakura Period

(AD1247)

Ouita Pref.

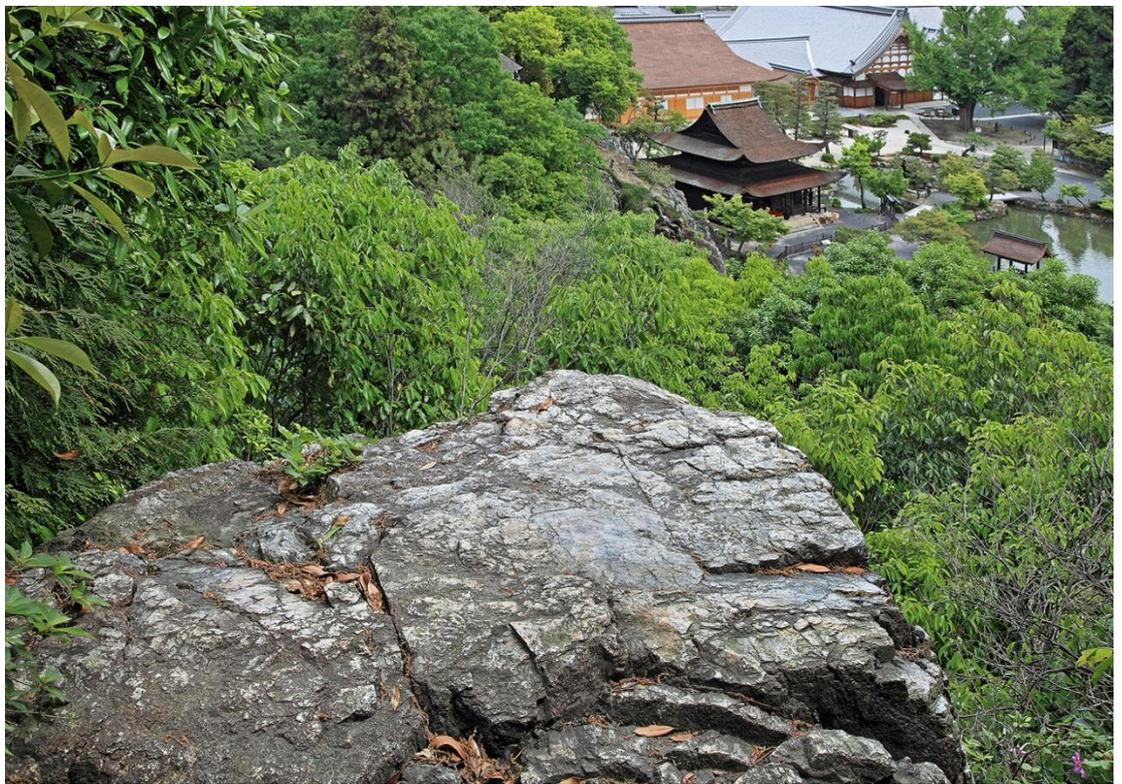
kujyumachi



禅庭園の原点：庭園と言うよりは自然の風景なので、修業の場と言うべきであろう（龍門寺本堂より龍門の滝を望む）。蘭溪道隆は 1247 年上洛するために円通寺を出て、途中大分県の九重町で滝に出会い「龍門の滝」と命名した。そして滝の正面に龍門寺を創建して、弟子の南岳をここに残して京都に発った。



龍門瀑とは：中国の故事にある「登龍門」の由来である鯉が、三段の滝を登って将に龍に化す様を現している。中国南宋よりの帰化僧の蘭溪道隆禅師が中国の故事にある登竜門（鯉が死を賭してまで竜になるべく努力するさま）にならって、修行僧が観音の知恵を得る（悟る）まで、努力をしなければならぬことを日本庭園の形で教えている



## Garden No6

永保寺

**Eiho-ji Temple**

Kamakura Period

**(AD 1314)**

Gifu Pref.

Tajimi City

Torayama Machi

Tel:0572-22-0351

この庭は夢窓国師が最初に作ったもので、1314年40歳である。西芳寺、天龍寺に先立つこと25年前である。この地は土岐川の流れがΩ字形に曲がったところの山の上にあり、禅境の地としては最高である。池には大きな中島がなく、後の天龍寺の地割そのものである。特徴付けているのは無際橋といわれる反橋である。これは平安時代では俗界から極楽浄土の世界へ入るものであった。ここではその伝統を受け継いでいるが、観音堂の観音の悟りの世界に至ることを意味している。次の特色は梵音岩といわれる巖である。この巨大な巖は古代以来の信仰の対象である磐座(いわくら)であったろう。しかもここから滝が流れていて、深山幽谷の趣だ。しかし最も重要なのは西側の山の上にある坐禅石だ。ここからは視界が開け、気持ちが良い。ここから梵音岩を流れ落ちる滝の景色は、将に苔寺の坐禅石から龍門瀑を見る景色と同じ構図である。



滝見観音(永保寺)

流木のニッチの中には観音が座している。仏龕には滝を施している。



滝見観音(清雲寺)にも中国の宋時代に作られた同様の形の像がある。

## Garden No7

瑞泉寺

Zuisen -ji

Temple

Kamakura Period

(AD1327)

Kanagawa Pref.

Kamakura City

Nikaidoh710

Tel:0467-22-1191



修行の道場:水月観音の道場である天女洞と岩盤を穿った池がある。水流を辿ると水分石と滝がある(写真右側)



葆光窟(ほこうくつ)なる坐禅窟



葆光窟の明かり取り



水月観音

観音信仰は中国から伝わった。洞窟の背後から滝が流れ、座禅している岩盤を水流が洗う(建長寺水墨画)。

上記永保寺や清雲寺の像の影響で瑞泉寺・永保寺の修行道場が作られている。



「偏界一覽亭」より夜明け前の富士山を望む。

夢窓疎石は景色の良い所を道場とした。



西芳寺の龍門瀑（中央が鯉魚石）と修行の道場  
道場から造形への過渡期の庭（左側龍門瀑造形、右側が階段と坐禅の場所）

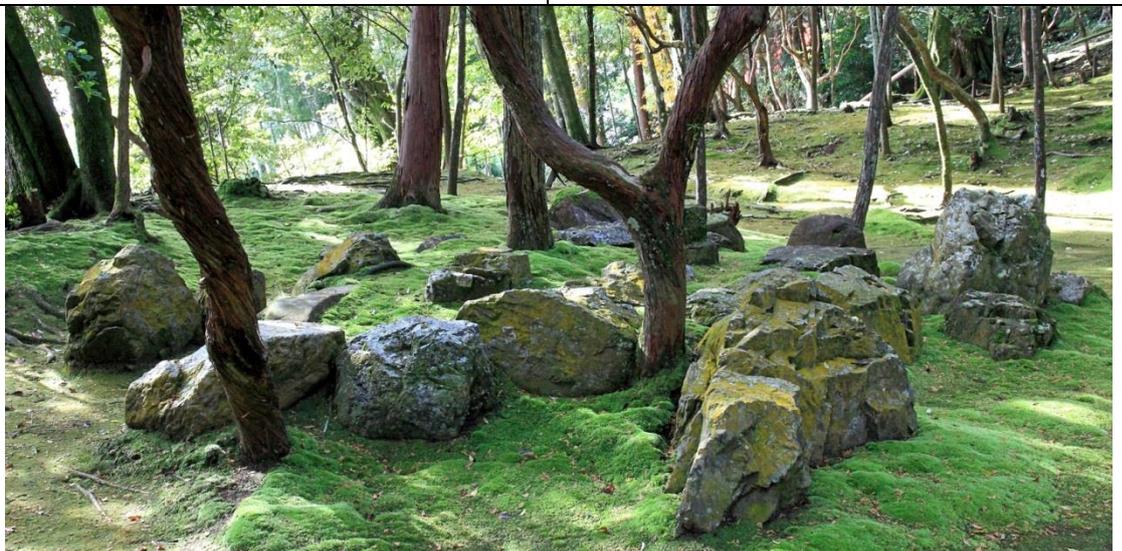
**Garden No8**  
西芳寺(苔寺)  
**Saiho-ji Temple**  
**(Kokedera)**  
Muromachi Period  
**(AD1339)**  
Kyoto City  
Nishigyoku  
Tel:075-391-3631



自然の洲浜を表象化した造形

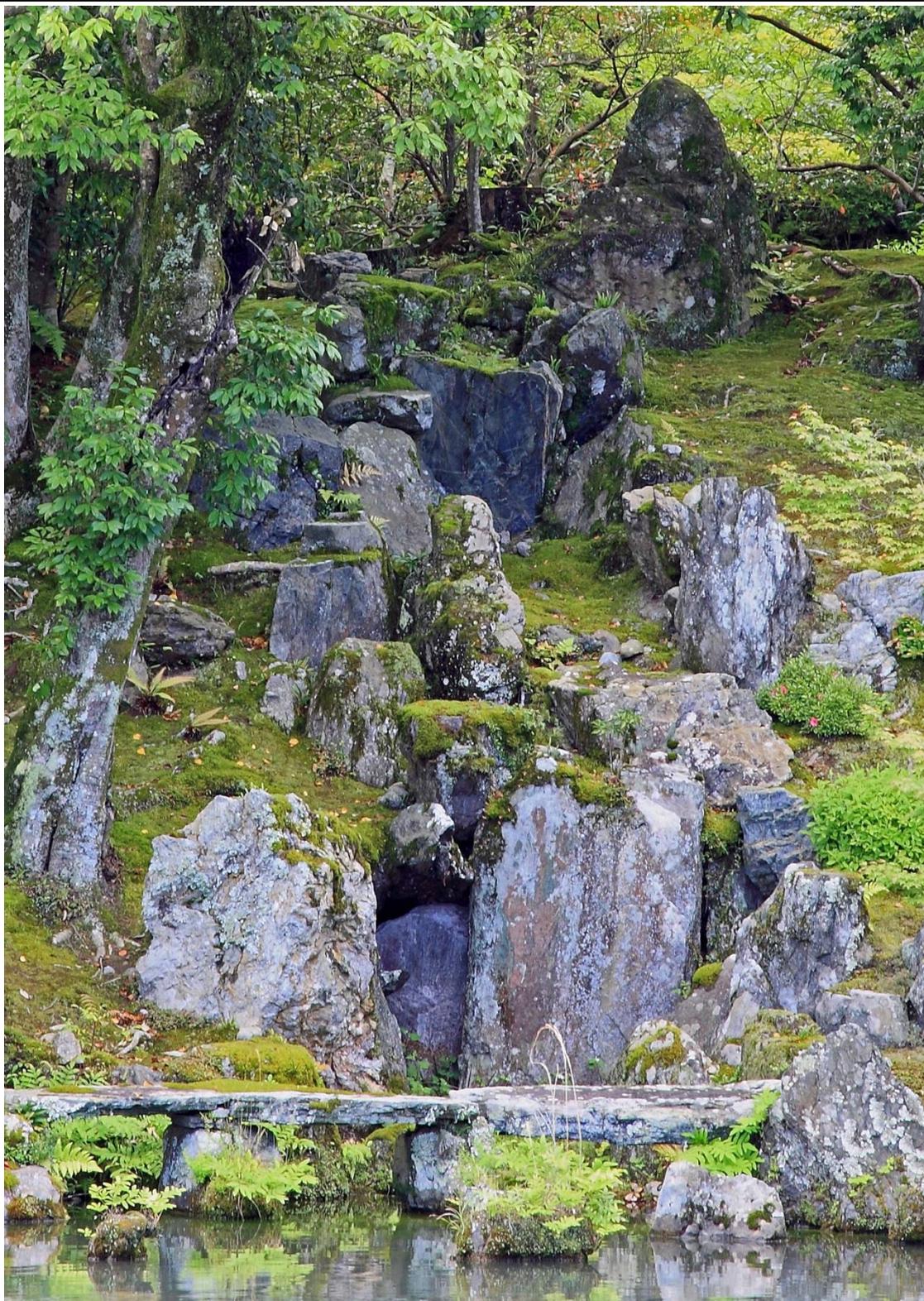


「龍淵水」石組みと坐禅石  
【See 永保寺(10P)】



亀島

**Garden No9-1**  
天龍寺  
**Tenryu-ji Temple**  
Muromachi Period  
**(AD1339)**  
Kyoto City Ukyoku  
Tel:075-881-1235



龍門瀑（上より観音石・鯉魚石・碧巖石・滝落石・石橋の三橋）  
この時代になると中国の水墨画の影響で、池の周辺に護岸石組みがはじまり、日本庭園に立体的な石組が始まる。その典型的な例が天龍寺の龍門瀑石組である。



龍門瀑石組の鯉魚石を横から見る

**Garden No9-2**

天龍寺

**Tenryu-ji Temple**

Muromachi Period

**(AD1339)**

Kyoto City Ukyoku

Tel:075-881-1235



洲浜は庭園に奥行きを与える



池泉庭園の護岸は部分的に石組みが始まる(対岸右奥には土波が残る)



Kinkaku-ji Temple



Ryumon-baku Fall



金閣から見える有名なと細川石(左)と三尊石組(右)

**Garden No10**

鹿苑寺(金閣寺)

**Rokuon-ji Temple  
(Kinkaku-ji)**

Muromachi Period  
(AD1397)

Kyoto City Kitaku

Tel:075-461-0013



Ashihara-jima Island は全て巨石の護岸石組で覆われた。



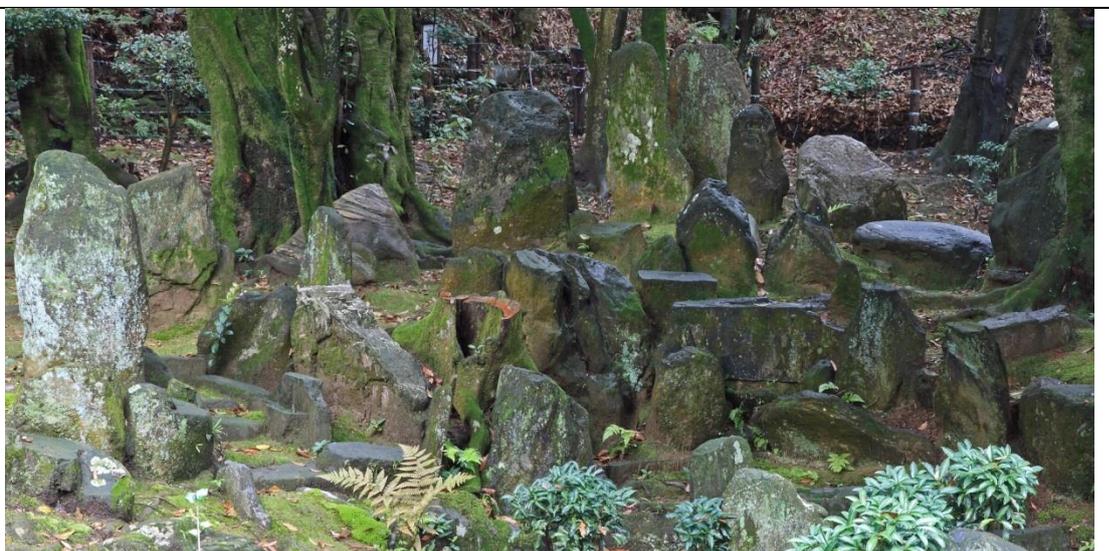
龍門瀑全景：左より観音石・猿石・碧巖石・鯉魚石・鯉魚石がある



立石による空間構成は現代庭園にも通じる構成美である。



立石が林立する中であって、稜角の鋭い二石の石が「龍門瀑」の存在感を示している。



画面の左側にもう一つの枯滝がある。

**Garden No11**  
保国寺  
**Hokoku-ji Temple**  
Muromachi Period  
**(About AD1400)**  
Ehime Pref.  
Saijyo City  
Nakano-1681  
Tel:0897-56-3357



白鶴島に架かる三本の石橋と三尊式石組(白鶴島の松の手前)

**Garden No12**

慈照寺(銀閣寺)

**Jisyo-ji Temple  
(Ginkaku-ji)**

Muromachi Period

**(AD1490)**

yoto City Sakyoku

Tel:075-771-5725



Ginkaku 前の護岸石組



山上部石組の景觀



銀沙灘と向月台の抽象造形

碧巖録の言葉がほとんど視覚化された造形が、揃っている。1466年頃に菊池家20代当主の為邦が肥後守護の職を嫡子重朝に譲り、亀尾城下の山紫水明の地に隠居して、日夜『碧巖録』の研究に励み仏門に入った。彼は武将に『碧巖録』を講じたと言われている。庭園はその時に作られたと考えられている。



碧巖録の世界が忠実に眼前に蘇る

- ・護岸左からの名称: 龍尾石、龍の足、龍腹護岸、達磨石、碧巖石(観音石と猿石)、龍門の滝
- ・池中左側からの名称: 鯉尾石(龍尾石の手前)、九山八海(画面中央)、坐禅石(三石)、小鳥を象徴した小石、鯉魚石(立石)。



『碧巖録』に因んだ中央にある碧巖石と、その左右にある小さな石は観音石と猿石だ。このような造形のある庭園は金閣寺龍門瀑の左側にあるので参考にして欲しい



「五灯会元 夾山」より  
 猿抱子帰青嶂後 鳥啣花落碧巖前  
 猿は子を抱いて青嶂の後ろに帰り  
 鳥は花をふくんで碧巖の前に落つ  
 碧巖石(画面中央) 向って右側が猿石  
 で、碧巖石の前にある池中に傾斜した  
 石は鳥が碧巖の前を滑空している物  
 語を視覚化した造形。

## Garden No13

碧巖寺

Hekigan-ji

Temple

Muromachi

Period

(1466)



余白の多い枯山水庭園：枯滝を挟んで左右に巨大な伏石と鯉魚石がある。



縦に深い溝が二筋入った枯滝に向かう鯉魚石



伏せ石が使われている：龍門瀑の左手前にある伏せ石（長さ：450 c m、高さ：102 c m）は古典庭園の中にあって特異な存在である。

**Garden No14**  
普賢寺  
Fugen-ji Temple  
Muromachi Period  
Yamaguchi Pref.  
Hikari City  
Tel:0833-79-1223



遠近法に依る石組みは中国の水墨画の影響。手前に大きな石を配置し、奥に行くに従って小さな石を使う。これにより造形に奥行きが出る。

### Garden No15

常栄寺 (雪舟寺)

Jyoei-ji Temple

(Sesshyu Temple)

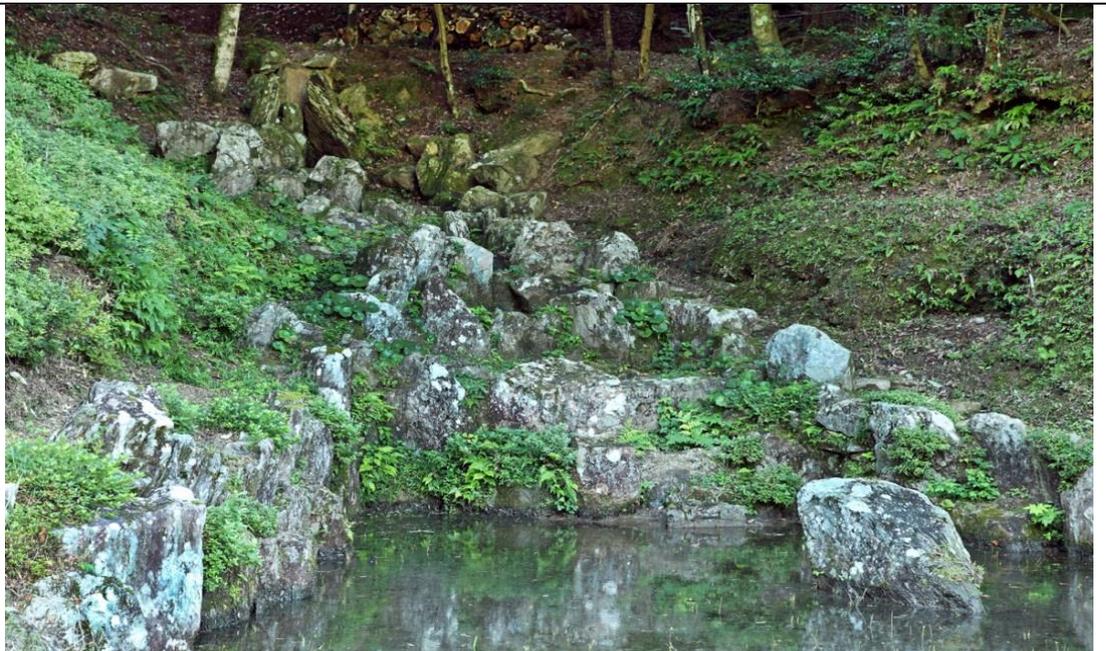
Muromachi Period

(AD1470 頃)

Yamaguchi City

Miyanosita2001

Tel:083-922-2272



長大な龍門瀑 (滝は7段 20m) : 鯉魚(右下)が滝を登り龍に化身する瞬間



山畔にある回遊路石組 : 水墨画の高士が歩く山道を表している



半球状に盛土した築山に仏教哲学の九山八海と須弥山石組を作った。

**Garden No16**

萬福寺

**Manpuku-ji**

**Temple**

Muromachi Period

**(AD1479)**

Shimane Pref.

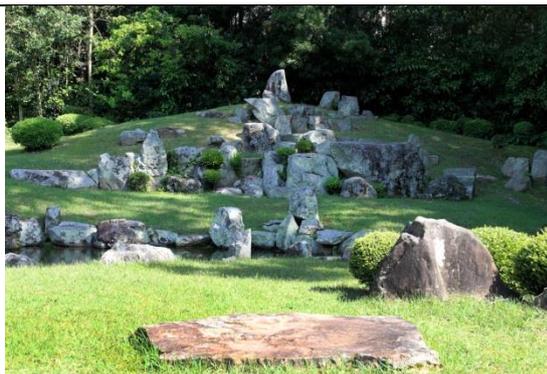
Masuda City

Higasimachi

Tel:0856-22-0302



庭園に使われている石は総て稜角の鋭い白みがかった石である。圧倒される造形美は石の選択に負うところが大きい。庭は中央にゆったりとした築山を築き、その上に九山八海の石組をして、頂上には須弥山が聳えている。



坐禅石と九山八海石組



池の右端に端正な龍門瀑がある

## Garden No17

龍源院

Ryogen-in Temple  
Muromachi

Period

(1517~23)

Kyoto City

Kltaku Daitoku-ji

Tel:075-461-0013



龍安寺の様に方丈建物の南庭に庭を作り事は禁じられていた。重要な行事をする場所であるからだ。しかし方丈内の空間や廊下が広くなると、南庭での行事が行われなくなって来た。しかし、本来の聖なる空間に、遊びの造形物を作ることは憚られた。方丈の北側や北東の角（大仙院）に小さな庭が作られ出したと思われる。

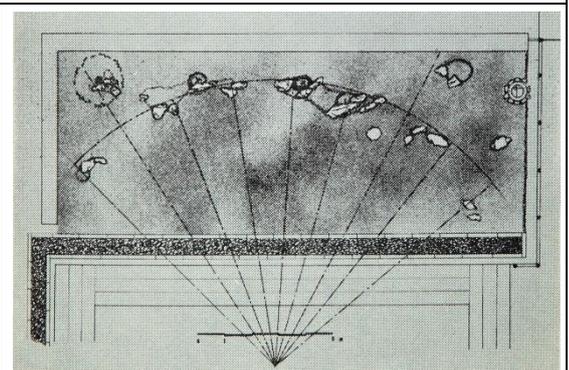
石組の造形は須弥山とも解釈できるが、寺名に因んで龍とも考えられる。この主石は右側に傾斜しているが、傾斜の方向が背後の三門方向である事から、この庭園が出来たのは山門が出来た 1524 年以前と思われる。



石組の拡大：左端の立石は龍尾石で、首石前の円形石は龍の玉の象徴か。



主石が傾いていることから、須弥山の象徴ではなく、龍の象徴と思われる。



龍源院庭園の平面図は弧状になっているので、龍安寺の前段階の習作とも考えられる

## Garden No18

旧秀隣寺

Kyu-Syurin-ji

Temple

Muromachi Period

(AD1528)

Shiga Pref.

Takashima City

Kutsuki

Tel:0740-38-2103



比較的小さな庭であるが、どのような角度から見ても飽きさせない凄さが溢れている。背後に低めの築山を築き、浅い池であるが鶴島、亀島がある。鶴島は日本一ともいえる大胆な造形だ。亀島の亀頭石は元気よく垂直に組まれている。護岸は逆L字形に入り組まれている、出島に変化を添えている。護岸の石は縦石と横石がバランスよく組まれている。橋は厚いが低めに架けられている。このようにコンパクトでありながら小気味よい切れ味に溢れた庭である。足利時代最後の光芒を見る思いだ



右に鶴島、左に亀島があり中央奥に蓬莱山がある。典型的な鶴亀蓬莱の庭だ。

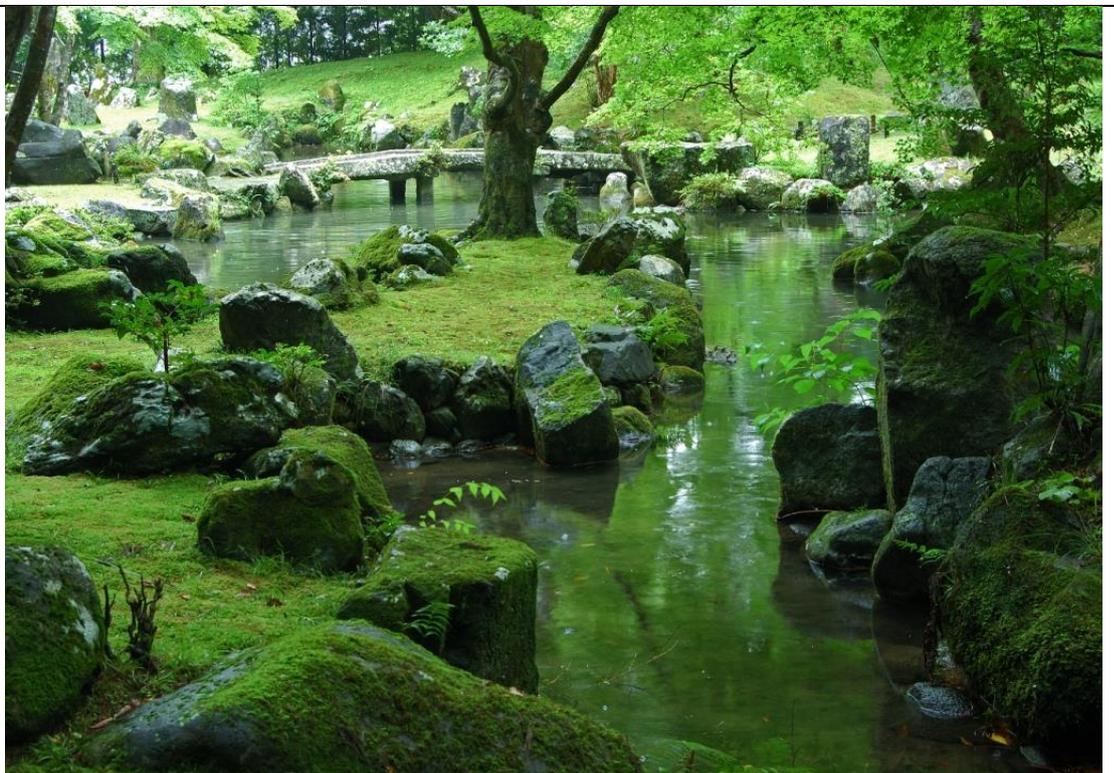


比較的小さな石であるが、要の場所には大き目の石を使い緊張感のある庭。庭園全域に配置された石は、造形過剰にせず、必要最小限度の石で空間構成した。

**Garden No19**  
 北畠神社  
 Kitabatake-  
 Jinjya Shrine  
 Muromachi  
 Period  
 (1529)  
 Mie Pref.Tsu City  
 Tel:059-275-0615



中央に 192cm須弥山を中心とした九山八海を象徴している。



池庭は米字池と言われるような出入りの多い地割である。細くて長い 7 本の出島の護岸は比較的大きな石で組まれている。古典庭園の中でもっとも複雑な形をしている。



須弥山石は刀の切っ先の様な形をしている



石組み造形は須弥山石を中心として右回りの螺旋形の石組。

## Garden No20

龍安寺

Ryoan-ji Temple

Muromachi Period

(AD1537)

Kyoto City Ukyoku

Tel:075-463-2216



奇跡的に残った日本庭園の最高峰。しかし、時代の波にもまれ造園時の姿とは異なり、庭園は三方向から小さくなり、土塀越しの自然の風景が見えなくなり本来の鑑賞が出来ない。しかし遠近法、自然美との対照の人工造形美、最小の石組みによる空間構成美こそが石組美の到達点である。

- 全部で 15 石が抽象的に配布されている(左より 5 群の石組みは 5+2+3+2+3)。
- 手前にある左右の石はやや大きく、壁側の石は低い石を選択しているが、方丈から見て遠近効果を出すような石組にしている(奥行きが浅くても狭隘感を感じにくい)。
- 壁の背後の木が繁茂しすぎている。そのため本来見えていた京都の山並みや市街地が見えなくなってしまった。本来は背後に見えた自然界と塀の内側にある人工界の対比により、人工的な造形が、その美しさを際立たせていたのであった。



・庭園を左側から見ると、手前の小石と奥にある石組みは直線状に関連している。



・奥の壁を見ると左側が低くなっているが、遠近法的構成のためだ。

## Garden No21

大仙院

Daisen-in Temple

Muromachi Period

(AD 1509~1560)

Kyoto City kitaku

Tel:075-491-8346

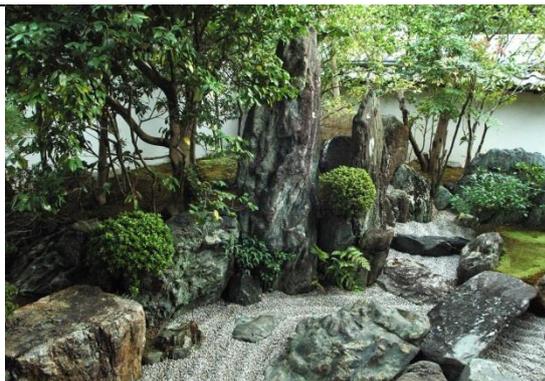


1509年古岳宗亘（こがくそうこう）禅師が作ったといわれる。師は禅の悟りを分かりやすくするために、狭い場所に禅の庭を作った。しかしその後阿波の緑石などが寄贈され豪華に石が組まれている。観音石、不動石、龍門瀑、石橋、鶴亀蓬莱、舟石、坐禅石、沈香石、叡山石などあらゆる要素を含んだ盛りだくさんの庭となっている。



具象的内容を抽象的手法で表現した庭

不動石(左)と観音石(右)、その右側から滝が流れ出し激流になってくんだり、大河となる。石英の筋が入った石が水落石。



現在は名石尽くしの庭になっている



溪流を下った流れに小舟が浮かぶ



この立体山水画ともいえる庭は狩野派の祖と云われる狩野元信の作と云われている。と云うのは、庭の構成は伝狩野元信筆の「琴棋書画図」(霊雲院蔵)の滝や石橋の位置、石組みの構成などがそっくりであることに所以している。

## Garden No22

退蔵院

Muromachi Period  
(1558)

Kyoto Pref.

Kyoto City

Tel:075-463-2855



亀島には石橋が架かっているが、本来神仙島は人間が踏み込めない聖域であったが、ここでは水墨画では滝の前に橋が架かっているの、神仙島には橋が架からない、という伝統が打破されたのであろう。



現在蹲踞がある場所は当初は鶴出島であった



築山には蓬莱連山があるので、鶴亀蓬莱の庭

## Garden No23

願行寺

Momoyama Period  
(1567)

Nara Pref.

Shimoichi Town

Tel:0747-52-2344



「二河白道」の庭：善導が解いた極楽への道。恐ろしい火・水の二河に挟まれた細い白道を、越え西方浄土に至る道を譬えたもの。

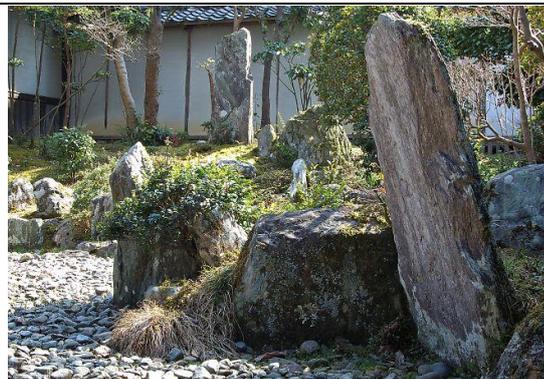


白道は一般的には白い石で象徴されるが、この庭は小舟に乗って阿弥陀の世界に迷わず進む行人の姿を象徴。火の河は衆生の瞋恚（怒）、水の河は貪愛を表す。後方・南北より群賊・悪獣が殺そうと迫ってくる。

右端の赤い石は韋提希夫人の悩みの象徴か



洞窟とも云われるが庭のテーマと合わない



右側立石は阿弥陀如来を象徴している。  
このような石組は 1566 年に聚光院に組まれた半円状石組と類似

## Garden No24

信長公居館跡

(岐阜城)

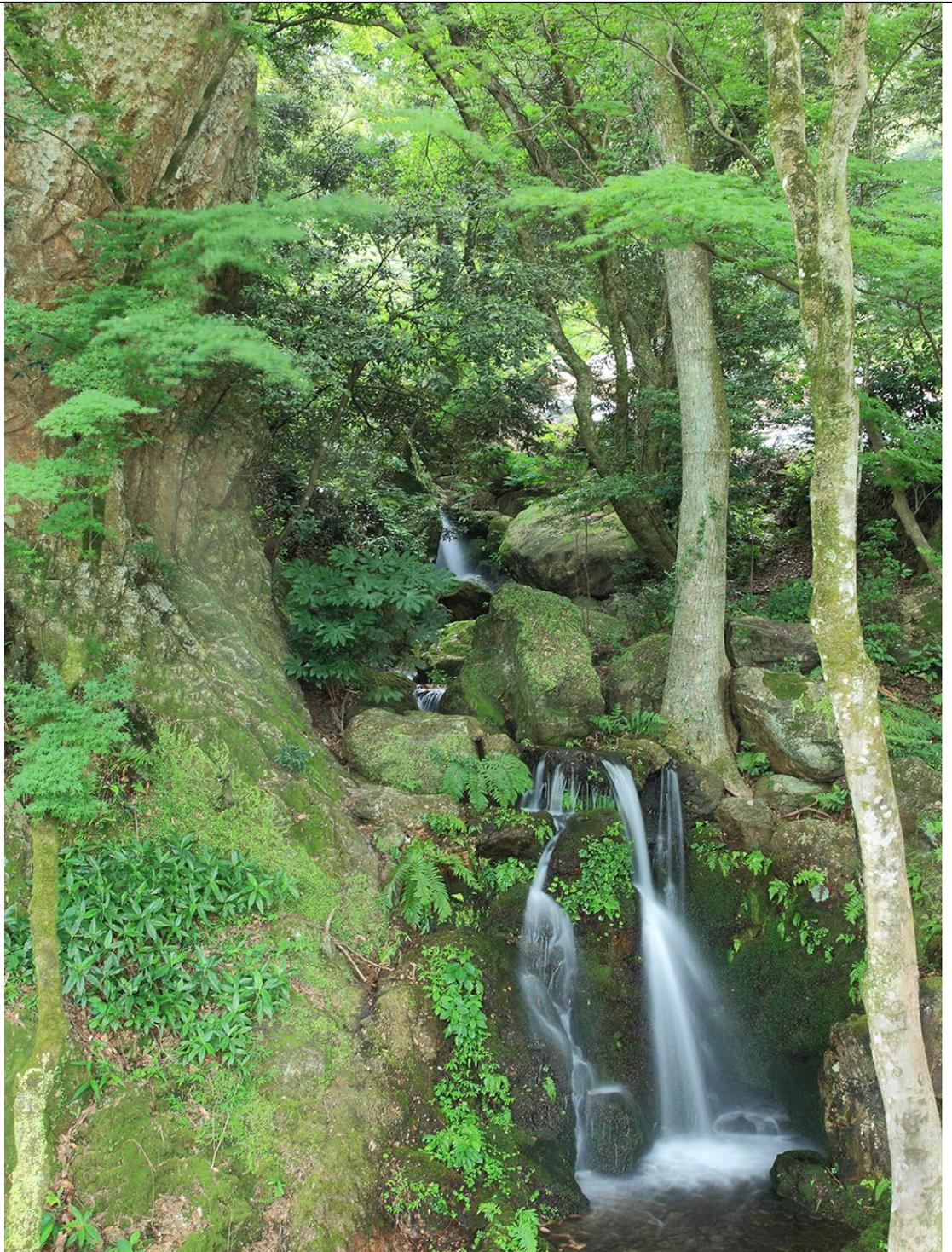
Gifu-ryo-yakata-  
ato Vestige(Castle)

Muromachi Period

**(AD1567)**

Gifu Pref. Gifu City

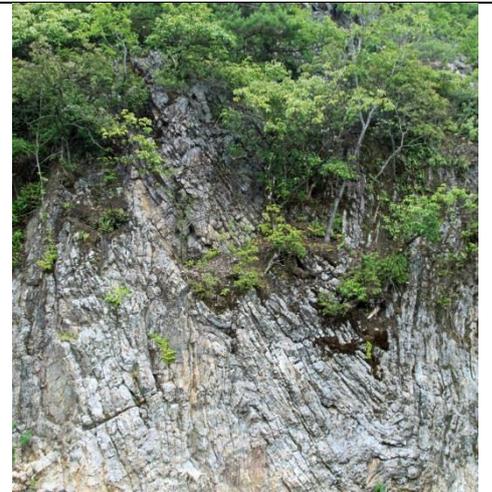
Tel:058-214-2365



滝の左側の岩盤は鑿で穿かれ、水墨画のオーバーハングの造形が人工的に作られている。庭は溪流沿いに段々地形を作り庭園や建物が配していた。



反り立つ岩盤は水墨画の世界を実寸再現



35mの岩盤から2条の滝が落ちた

## Garden No25

朝倉氏遺跡

Asakura-iseki  
Monument

Muromachi Period  
(Before AD 1573)

Fukui City

Tel: 0776-41-2173



諏訪館跡 半円形の山裾に雛壇状に石が組み、戦国時代を代表する質実剛健な庭だ。石橋はこの時代の特徴である分厚い石を用いている



諏訪館跡 護岸石組みは、さして大きくない石を使っているため、出入りが多くカーブが鋭く動きがある造形で護岸石組の白眉。



湯殿跡庭園 滝・鶴島・亀島・三尊・蓬莱山石組みなどフルセットで、山畔には背後の山から水を引き、滝を落とした型にはまらない変形の三尊石組が2組ある

**Garden No26**  
三田村家  
Mitamura-ke  
Family  
Muromachi  
Period  
(Before 1573)  
Fukui Pref.  
Echizen City  
Otaki Town  
No Permission



西側の書院から見た池泉の前景: 池中の浮島や護岸の立石(両界石)が古式な様式を感じる。



庭園は五角形をした池に中島があり、その左右に三つの石橋が架かっている。北側には大きな築山が作られ石柱が林立しているが、南側から奥まるにつれて石は順次小さく組まれていて遠近法の効果が発揮されている。

瀧は中島の左側にあるが、申し訳程度のデザインで、後世のこれ見よがしの大きさではない。中島に架かっている三つの石橋は銀閣寺の白鶴島に架かっている地割と同じ様式である。石橋は無骨であるが好感のもてる質実剛健な印象だ。



技巧に走らない質実剛健な石組だ。稜角の鋭い巨石を無造作に組んだ印象を与えるが、作者のインスピレーションに従いスピード感を以て組まれたに違いない。

**Garden No27**  
本法寺  
**Honpo-ji Temple**  
(Momoyama  
Period • 1590)

Kyoto Pref.  
Kyoto City  
Kamigyoku  
Tel:075-441-7997



滝添え石は宗祖日蓮と開山の日親を表し、斜めの石は虹色の滝を象徴している。



枯滝から流れ出した溪流は石橋の下を潜って大海に出る



「日」の字形の丸い石と不等辺十角形の池には蓮が活けられ、宗祖「日蓮」を象徴

## Garden No28

西本願寺

Nishi-honngann-ji

Temple

Edo Period

(1611)

Kyoto Pref.

Kyoto city

Shimogyo-ku

Reserve

Tel:075-371-5181



庭の構成は鶴島と亀島の間には蓬莱連山と枯滝があるが鶴島と亀島は余りにも具象的すぎるが、切石による美しい曲線の橋を採用したことは、自然石のみの庭園に新風を巻き起こした。



枯滝：迫力の枯滝はこの時代を象徴している。蓬莱連山はこの滝の右側にあるが、植栽で見えにくい

**Garden No29**  
円徳院  
**Edo Period**  
(1624)  
**Kyoto City**  
**Higashiyama-ku**  
**Tel:075-525-0101**



L型に築山を築き巨石を所狭しと並べている

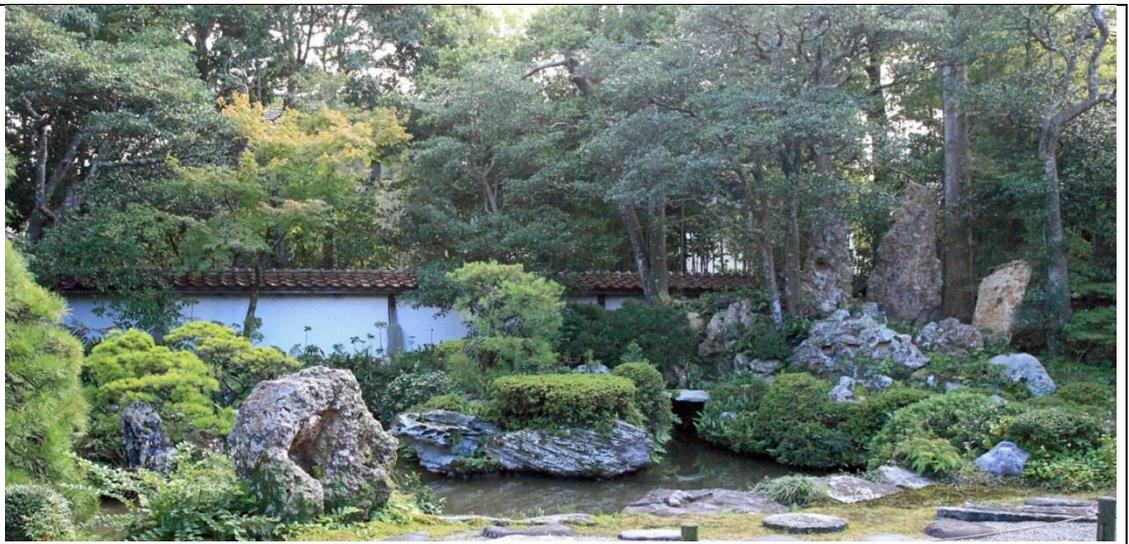


枯滝石組は中心となる要が不明のため求心力が失われ、散漫な印象を受けるが、この時代の美学である。目を引くのは鶴島と亀島に架かる分厚い石橋だ。桃山時代になると神聖たるべき蓬莱島へ橋が架けられるようになる。その背景としては既に天下人となった武将は蓬莱島を理想の島とは考えなくなったためである。秀吉が伏見城で楽しんだ様がよく分かる一品。



安土桃山時代の豪華絢爛たる庭

**Garden No30**  
深田家  
**Fukada-ke Family**  
**Muromachi~**  
**Early Edo Period**  
Reserve  
Tel:085-93-3445



書院後からの景：左端に亀島の亀頭石、中央に鶴島、右側の出島には蓬莱山を象徴していると思われる三尊石組みがある。



池中に鶴島（鶴島の古い様式の造形ながら最高の石の選択で、具象的テーマを抽象的造形に昇華されている）。一方、右側出島上の三尊石組および基壇の造形は火炎のように揺らめく姿に戦慄を覚える。



左側に亀島（亀頭石が立ち上がっている）、右側が鶴島。鶴亀一对の完全なる造形は最古にして最高。

## Garden No31

小川家

### Ogawa-ke Family

Simane Pref.

Gotsu City

Wagi Town165

Reserve

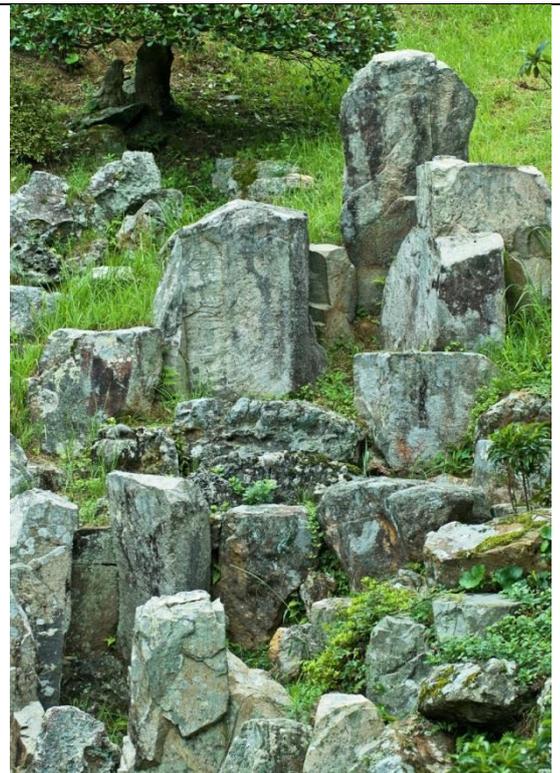
Tel:0855-53-1213



庭園は山畔を築山的に扱ひ、上部に三尊枯滝が威厳をもって添えられている（主石は約150cm）。いかにも装飾的でなく古式な感じを受ける。その下には山から誘導された水により滝が落ちるようになっている。室町時代の古式な滝組の好例である。作者は石の選択にあたり、何れも平天の立石のみで、造形にメリハリがある。



左側面より撮影：主石が前傾していることが解る



右側面よりの撮影：枯滝の段丘状石組み

**Garden No32**  
赤田家  
**Akada-ke**  
**Family**  
**Early Edo Period**  
Shiga Pref.  
Nagahama City  
Reserve  
Tel:052-937-0605



間口と同じくらいの奥行きのある地割で石組みは画面を横切るような斜線状に組み、視線は自然に左奥の築山に誘導される。立石はさほど大きくはないが、鶴島の羽石状の石、滝近くの細長い立石、左側護岸の仏像を象徴したような石、築山には枯滝状の石が分散して布石され空間構成美の庭だ。



特に目立った造形が無いので、具象的でなく抽象性の感じられる庭園だ。逆遠近法の構成は、右下の護岸は丸くて横石であるが、左側には大きな石が立ち、築山には護岸から奥に行くに従って大きな石になっている。



三尊式枯滝は最奥部にあるが山畔の巨石の石組みで、その存在感を増す手法である。万事具象的な造形ではないがゆえに、全景的な造形が静謐な庭にしている。

## Garden No33

金地院

Konchi-in Temple

Edo Period

(AD1632)

Kyoto City Nanzenji

Tel:075-771-3511



左右の亀島・鶴島が海洋に浮かび、中央には伝説の蓬莱山。

鶴島は鶴首石で鶴を象徴して秀逸であり、さらに鶴の背には三尊石組による羽石の造形や、その他に多くの色石が生まれ圧巻である。亀島は伏せた形の亀頭石は力強く迫力がある。また亀の背に聳えている柏槇(びやくしん)は聖樹であり、その姿は荘厳とでもいうべきか。



特に鶴島は護岸石組から脱皮して、鶴島の背は石組で覆われた斬新な造形。



鶴島の造形は圧巻である。従来の鶴島は池庭に作られたので、護岸の造形のみで神仙島を象徴した。枯山水庭園のため護岸石組に捉われることが無く、造形本位で鶴の背中を巨石で覆い尽くした。立石と横石で幾何学模様の造形を開発した。

1633年から小堀遠州などにより庭が作られた。しかしその後7回の火事に遭った。今日のような庭園になったのは1744年からの改造によってである。



広大な石浜を作るにあたって、京都所司代であった小田原藩主大久保忠真が寄進した。この石が「一升石」と呼ばれるのは、米一升と石一個と交換したから。色、形、大きさが吟味されている

## Garden No34

仙洞御所

Sento-gosyo

Imperial Villa

Kyoto Pref.

Kyoto City

(1636)

Reserve

Tel:075-211-1215



この写真の部分は改造されずに、小堀遠州の作った幾何学模様の造形が残った。一般的には護岸石組は複雑に前後左右に組むのであったが、彼は一直線の切石を使い斬新な造形を試みた。



残った小堀遠州が作った護岸石組（一直線に組まれた巨石）。

天下人(徳川将軍)の庭は広く且つ豪華で、ぎっしりと詰まった石組は一分のスキもなく息がつまりそうである。護岸となる石も二重三重に生まれ、このような圧迫感のある庭になり、以降このような迫力のある庭は出現しない。尚この庭は後水尾天皇を迎えるために改修したものである(小堀遠州)。



護岸石組の造形が極地に達した作品。日本庭園が更に芸術化するためには、護岸のみの石組からの脱皮が必要。護岸の不必要な枯山水庭園か、築山部への石組、池中への布石など。

## Garden No35

二条城

Nijyo-jyo Castle

Momoyama

~Edo Period

(AD1600~1626)

Kyoto City nakagyoku

Tel:075-841-0096



右端の焼け爛れたような石は亀島の亀頭石。桃山時代の絢爛豪華な庭の代表。

この神仙島(蓬莱島、鶴島、亀島)は聖域であったが、将軍は橋を架け直接踏み込んでいる。



巨石の石組に圧倒される

**Garden No36**

旧徳島城

**Kyu-Tokushima  
-jyo Castle**

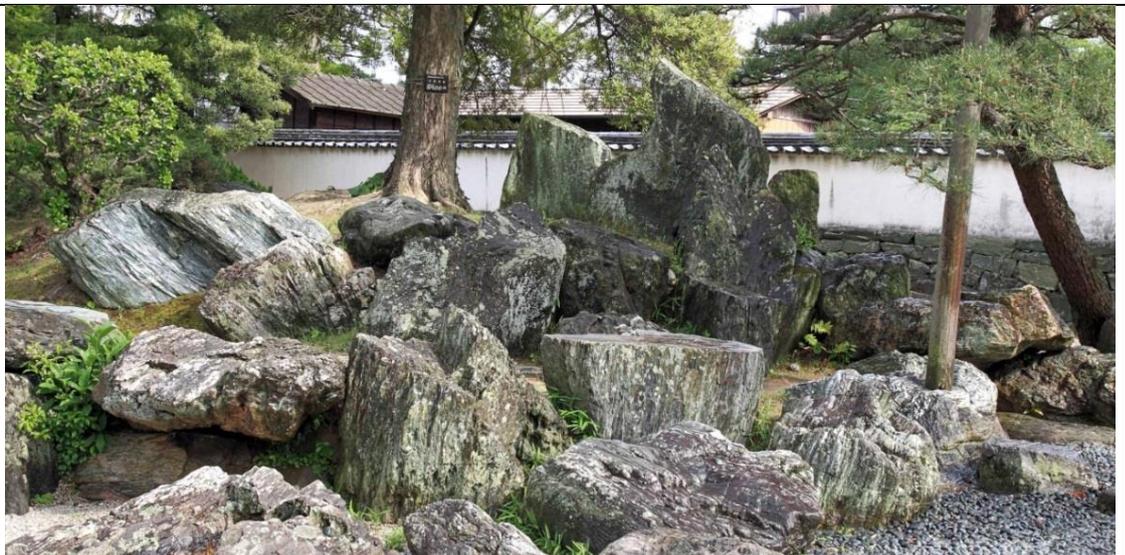
Edo Period

**(AD1602)**

Tokushima Pref.

Tokushima City

Tel:088-656-2525



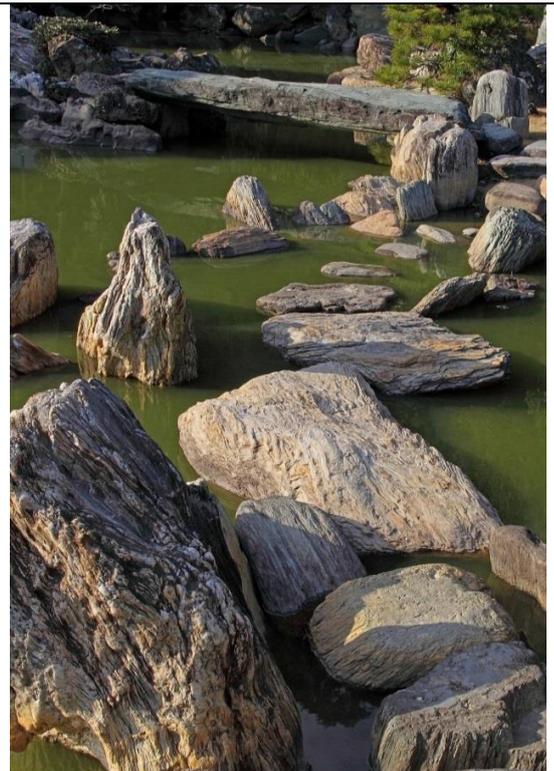
鶴島の造形：これぞ上田宗箇と云える象徴化された鶴島



鶴島（手前）と亀島を結ぶ豪華な石橋(背後には蓬莱山)



自然を超えた第二の自然を作った



選択した名石を飛び石として再構築

## Garden No37

名古屋城

### Nagoya-jyo Castle

Edo Period

(AD1615)

Aichi Pref.

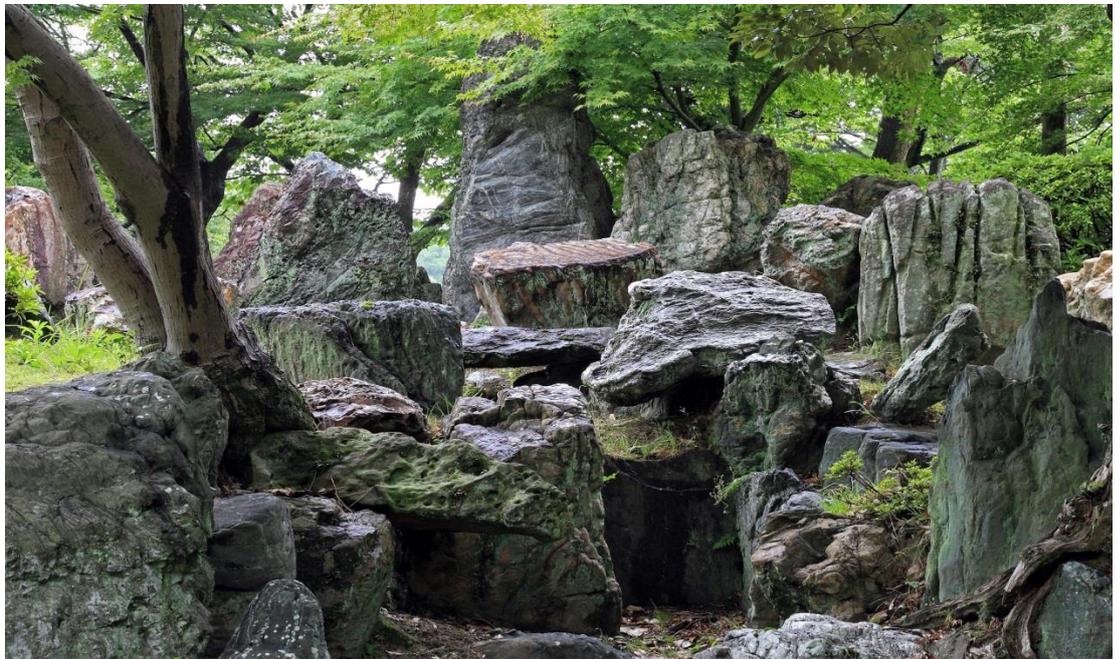
Nagoya City

Tel:052-231-1700



渡るに渡れない不安定な石橋を象徴している。

作者は「上田宗箇」であるが、彼はこの他に Garden No36、No38 も作っている。  
石の特性を活かしながらダイナミックな石組だ。



南庭滝石組：作者は表千家の茶人、吉田昭和によって 1881 年に、北庭を移築したもの。

## Garden No38

和歌山城

### Wakayama - jyo Castle

Edo Period

(AD1619)

Wakayama Pref.

Wakayama City

Tel:073-435-1044



有名な徳島産の青石をふんだんに使った滝の造形



洲浜先端にある岬灯籠に視線が集中する。栗石による洲浜の造形が斬新である。

## Garden No39

桂離宮

Katsura-rikyu

Imperial Villa

Edo Period

(AD1617~1662)

Kyoto City

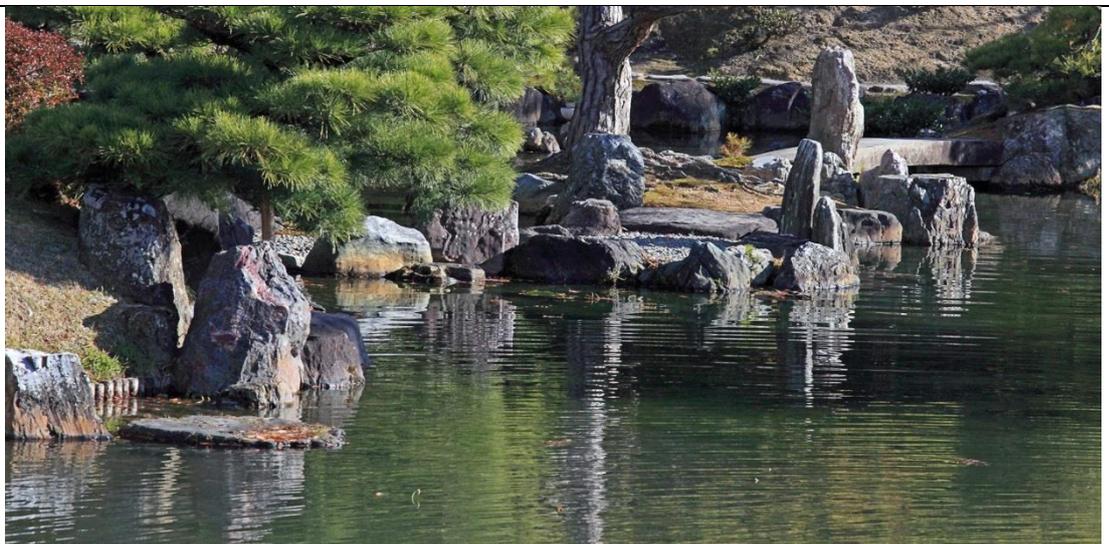
Ukyoku misono

Reserve

Tel:075-211-1215



建築と庭園が一体化しているため、恰も庭園の中にいるような錯覚を覚える。



石の並びの出入りと、さらに石の高さに起伏があるため、小気味よい造形になっている。その理由はこの護岸石組が小さな石ではあるため、鋭い曲線になっている。

**Garden No40**  
**栗林公園**  
**Ritsurin-koen**  
**Park**

**Edo Period**  
**(1640)**

Kagawa Pref.  
Takamatsu City  
Tel:087-833-7411



観音霊場「補陀落山」に因んで「小補陀-しょうふだ」問われた石組みがある。  
1400年頃室町時代の豪族佐藤家が作ったとの伝承がある。もし、これが事実であれば  
日本庭園が抽象化への大きな一歩と云える。



飛来峰から偃月橋（えんげつきょう）越しに「仙礪」と言われる6石に見える3石の石  
があるが、蓬莱山が揺らいで見えるため、相似形の石を組んだと思われる。



「仙礪」は蜃気楼の象徴



天女島には奇怪な石がと所狭しと配石

## Garden No41

圓通寺

Entsu-ji Temple

Edo Period

(1643)

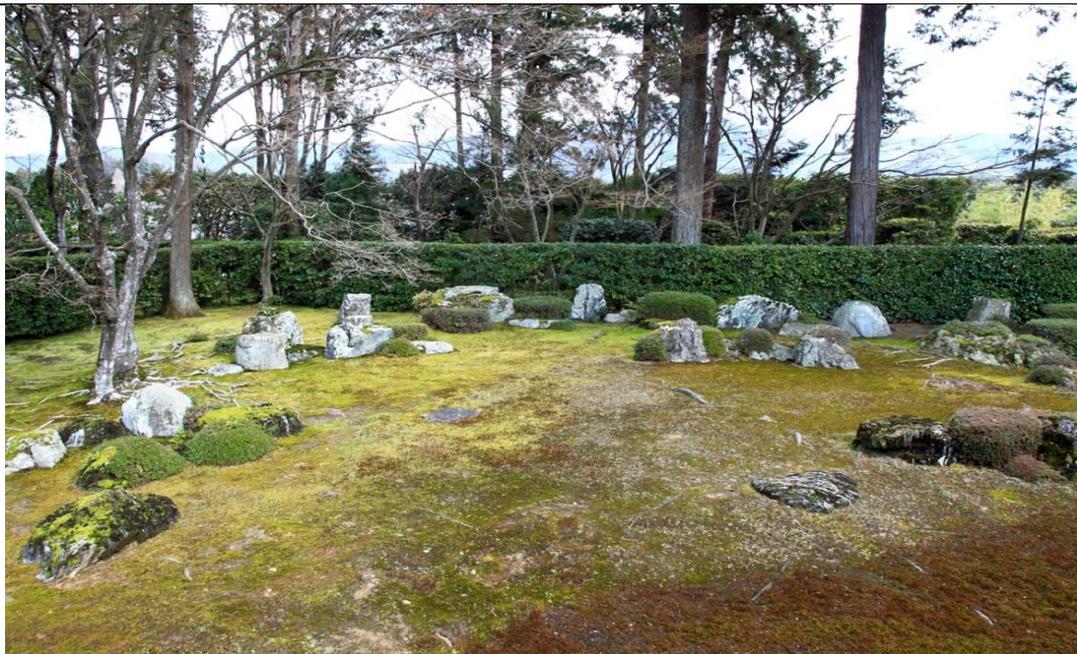
Kyoto Pref.

Kyoto City Sakyo-ku

Tel:075-781-1875



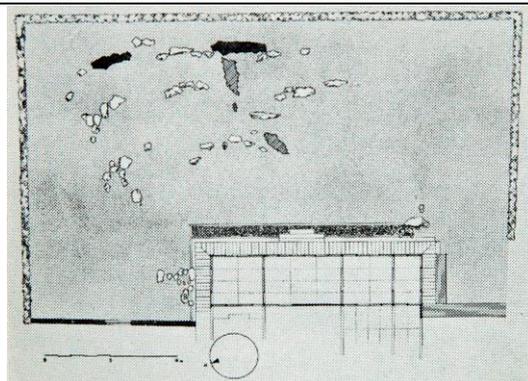
有名な借景の庭である。自然の中であって庭園が自然と拮抗できるのは、自然の模倣ではなく抽象化した人工造形美でなければならない。ただし自然美と人工美を好対照させるためには、庭園と自然の境界線は、この庭の生垣の様に明確な境界線が必要だ。玉淵の作品であるが、この他に普賢寺・雑華院があるが、いずれも借景の山がある。



三波の波の造形。本来白砂であり、園内にはツツジやカエデは無く躍動的な龍安寺とも



『拾遺都名所絵図』では盤陀石(右端)があり、龍安寺の様な白砂であることが解る。



大山平四郎著『龍安寺石庭』の黒色の石は現在玄関にある磐陀石。石組は三波の波涛

**Garden No42**  
譜門寺  
**Fumon-ji Temple**  
**Edo Period**  
**(1655)**  
Osaka Pref.  
Takatsuki-shi City  
Tel:072-694-2093



庭は水墨画のようである。中央に大きな出島を配し、左側に大きな枯滝があり、右奥の切石橋は溪流が河に出る谷口に掛けてある。



枯滝は橋を潜って大河となって流れ下る。石橋は全体に深く埋めて組み、盛り上がるような力強さを感じる。中央の枯滝は右見回って落ちている。右端の水平な石は立石の滝と均衡している。



向かって右奥にある溪流に架かる石組みを背後から見ると、立石と横石のバランスが計れられ安定している。または断面が造形が印象的だ。

## Garden No43

福田寺

Fukuden-ji

Temple

Edo Period

(About 1643)

Shiga Pref.

Maibara City

Nagasawa1049

No Permission



石組の分布が前後に深く、石数も過不足なく見事な空間構成をなしている。中島も無く、石橋も無い簡素な構成で、局部的な石組みに傾注することなく、手前の石組みと奥の石組相互間の関係性から生ずる遠近感、大小感、高低感など、複合的な対照感が相乗して空間構成美を増幅している。

右側出島の先端にある強く傾斜したライオンのような巨石と変幻自在な護岸石組みがあるが、水墨画のオーバーハングの山塊を象徴。また、奥に行くほど高くなる地割は逆遠近法で、見るものに枯滝が迫ってくる。地割の空間構成美を支えているのは、適度に欠損部のある稜角の強い石の選択だ。

## Garden No44

青岸寺

Seigan-ji Temple

Edo Period

(AD1678)

Shiga Pref.

Maibara City

Tel:0749-52-0463



写真中央の不動の滝の石は表面が荒々しく褶曲して、しかも全体が弓なりに反っている。この枯滝組の造形は手練の石組みで、天才的な手腕の持ち主としか言いようがない。地割の特徴は間口に対して奥行きが深く、奥に行くに従って山畔が高くなり、更に最深部の三尊石部は盛土までしており、奥行きのある立体造形は見どころである。この地割こそが傑作庭園を生み出している。



左側は鶴亀兼用の石組。右側は坐禅石のある龍門瀑庭園



龍門瀑枯山水の庭はコーナーに巨大な卵形の石があるが、観音を象徴した石である。その左手前には不動を象徴した不動石がある。龍門瀑の鯉魚石が垂直に飛翔している姿は厳しい禅を象徴している。手前にある四角な石は坐禅石で、禅の庭が修業の場であることを教えている



十六羅漢岩組みは方丈東側にあり、大徳寺本坊のそれを髣髴とさせる。



仏教の根本である須弥山を象徴した庭は数少ないが、仏教の真髄がそのまま形になっている。ただし聖地のため中に入ることが出来ないが、参道を曲がったところに門があるので、そこの菊のご門から拝観したい。なお須弥山を形にした庭園は毛越寺、称名寺、北島神社、万福寺などである。(1475年一休禅師は寿塔と共に庭を作った)

**Garden No45**  
 酬恩庵  
**Syuon-an Temple**  
**Edo Period**  
**(1650)**  
 Kyoto Pref.  
 Kyotanabe City  
 Tel:077462-0193

**Garden No46**

小石川後樂園

Koishikawa

Korakuen

Edo Period

(1634~65)

Tokyo Pref.

Bunkyo-ku

Tel:03-3811-3015



亀島(蓬莱山)には徳大寺石と称せられる巨大な板状の石(幅2m、高さ4m)がある。広大な庭園であるが、この石によって印象付けられる。



白糸の滝

大名の庭の滝は巨石により豪華なものになる。信仰のためにではなく、名所写しのため



西湖にある石堤を模して作った(円月橋同様に水戸光圀が招いた儒者・朱舜水の指導で作られた)

## Garden No47

玄宮園(彦根城)

Genkyu-en

(Hikone-jyo

Castle)

Edo Perod

(AD1677)

Shiga Pref.

Hikone City

Tel:0749-22-2954



護岸・島中・池中・沿路にある、独立した石が醸し出す雰囲気は神秘的であり重厚でもある。何物も象徴せず、完全に抽象化された造形である。

まさに「江戸時代の龍安寺」とも云える日本庭園の最高傑作。

**考察)** 池泉庭園の護岸の石組はは二条城(40P)や旧徳島(41P)で極致に達し、護岸の修景は終焉する。以降「脱護岸」造形の試みの一つとして、池中に石を配石した玄宮園が出来た。更にまた、築山への造形の試みも行われ、栗林公園(44P)、岡山後樂園(51P)、芝離宮(52P)、摩伽耶寺など(56P)などである。

## Garden No48

楽々園(彦根城)

Rakuraku-en

(Hikone-jyo

Castle)

Edo Period

(AD1677)

Shiga Pref.

Hikone City

Tel:0749-22-2742



写真上部には深山幽谷の溪流はやがて激流になり滝からほとぼしり落ち、将に水墨画の世界。怒涛のように流れてくる溪流が末端の舳状の石から奔流のように落ちる。この水は滝壺で泡立っている様が奔騰石で象徴している。

**Garden No49**

岡山後樂園

Okayama

Korakuen

Edo Period

(1687~89)

Okayama Pref.

Okayama City

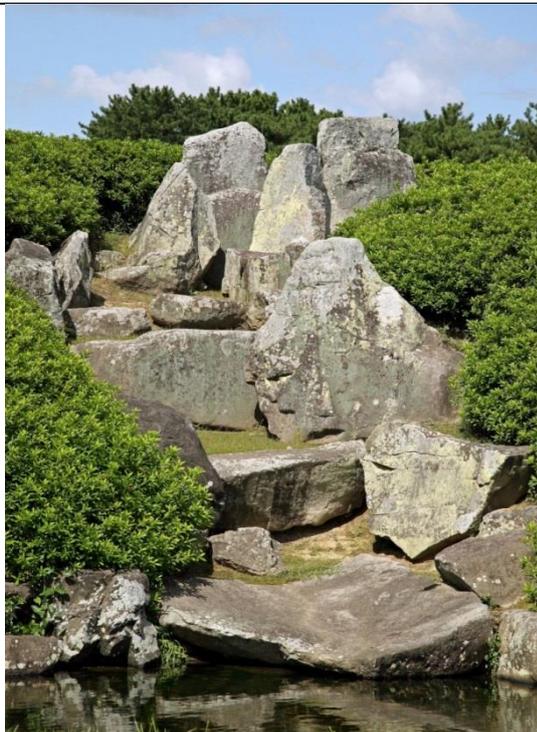
Tel:086-272-1148



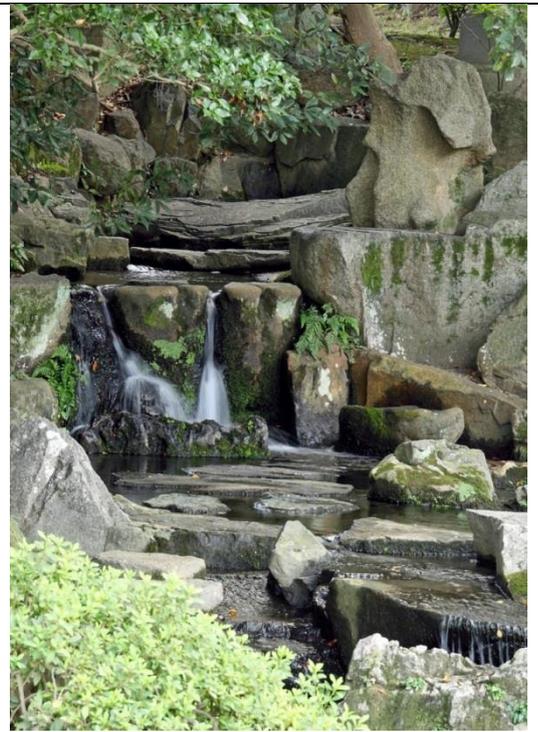
唯心山から沢の池と曲水を望む



緑の絨毯の様な芝生の中をゆったりと流れる曲水



唯心山の枯滝



花葉の滝

## Garden No50

芝離宮

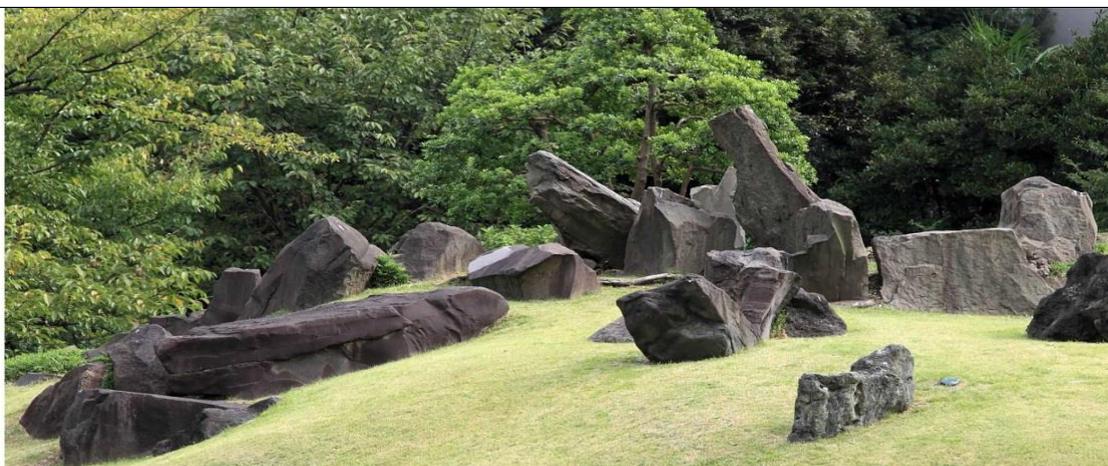
Shiba-rikyu

Edo Period

(AD1686)

Tokyo Minatoku

Tel:03-3434-4029



近代的感覚の造形は重森三玲の庭を思い起こさせる。このような庭園が出来たのは大久保家の領地から運んだ根府川石に負うところが大きいと思う。この時代になると脱護岸修景が始まり築山への石組が始まる。

## Garden No51

桂家庭園

Katsura-ke

Family

Edo Period

(AD1712)

Yamaguchi Pref.

Hofu City

No Permission



三田尻港で風待ちしていた帆船が、東風が吹くと一齐に出帆する風景を、「風の流れと船の動き」を抽象的に表現しようとした、と思われる。また細かな技法にも気を配り土塀の高さや庭の奥行きを奥に行くに従って浅くするなど遠近法を駆使している。



L字型庭園の屈曲部には庭園を際立たせている独創的な造形がある。

この造形は類型的ではなく、全くの創作であり、作者の天才的な才能の表れである。

## Garden No52

阿波国分寺

Awakokubun-ji

Temple

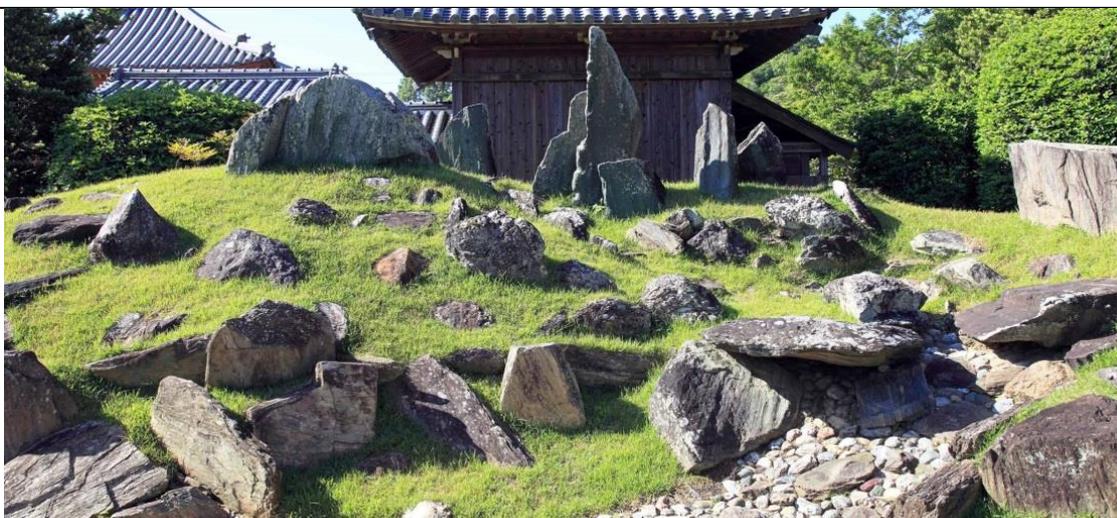
Edo Period

(About AD1800)

Tokushima City

Kokubunji-machi

Tel: 0886-42-0525



この庭は中国の廬山を象徴した造形である。石組は自由でダイナミックだ。



巨石による洞窟状の造形は廬山に実在する洞窟状の形を人工的に再現した。

## Garden No53

久留島家

Kurushima-ke

Family

(Seihoro Garden)

Edo Period

(AD1830)

Oita Pref.

Kusugun kusumachi

(Suehiro Shrine)

Left

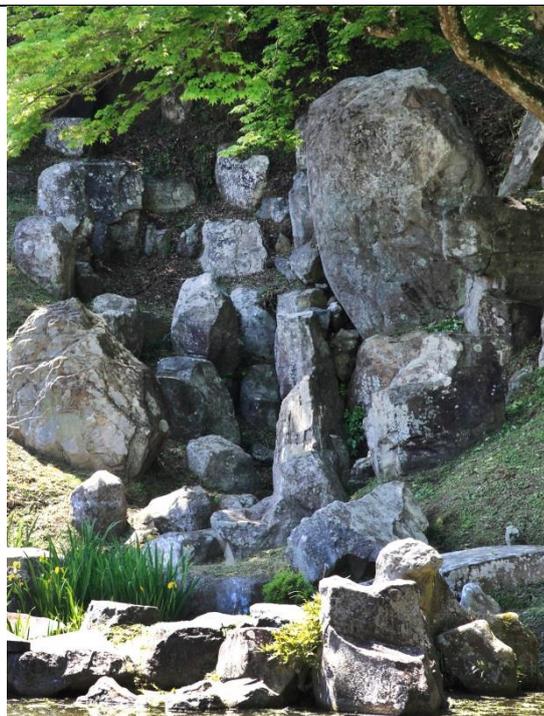
Seihoro Garden

Right

Hansyu Garden



聖山を背景とした庭園は基本的には枯山水庭園である。大自然の美しさと拮抗するためには、庭園は自然とは正反対の造形でなければ、単なる模倣になってしまう。龍安寺然り。



豪快な石組みは日本庭園史上最も特筆される。ただ巨石を並べるのではなく、自然を超えた人工の抽象造形であるところに共感を覚える。



山畔を活かした石組は古典的な鶴亀石組から離れた、近代的な造形を求める精神に由来すると思う

## Garden No54

神宮寺

End of Edo

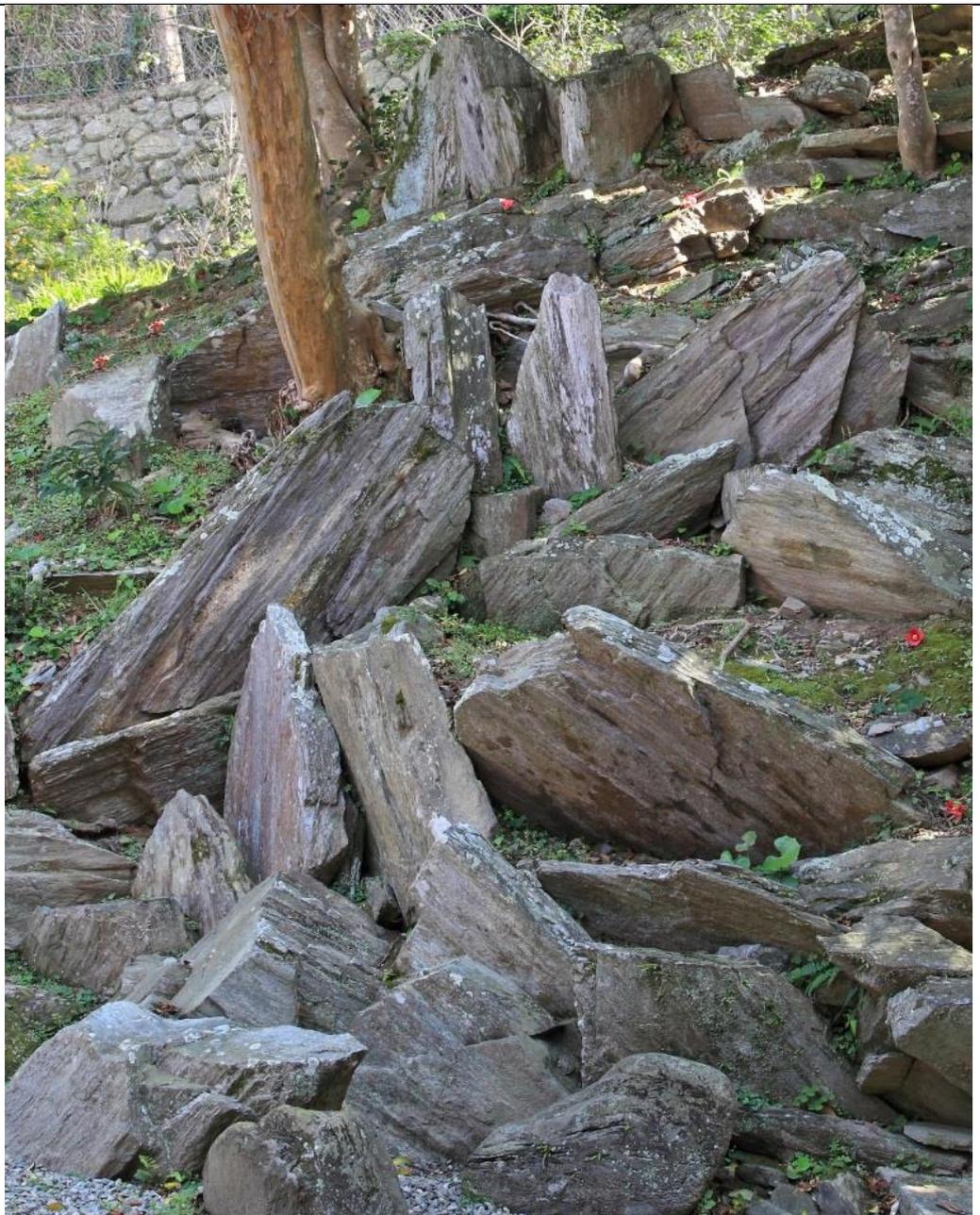
Period

Hyogo Pref.

Nantan Town

Nushima

Tel:0799-57-0029



こ特殊な時代と作者の関係で生まれたのだと思う (旧阿波国分寺 53P 参照)。

## Garden No55

粉河寺

### Kokawa-ji Temple

Edo Period

(About AD1830)

Wakayama Pref.

Kinokawa City

Kokawa-machi

Tel:0736-73-3255



力強い石組みの庭。テーマは鶴島・亀島・蓬莱山、そして石橋は中国の天台山・方広寺にある「石梁飛瀑」を象徴している。【参照：名古屋城(42P),漢陽寺(72P)】

## Garden No56

東海庵

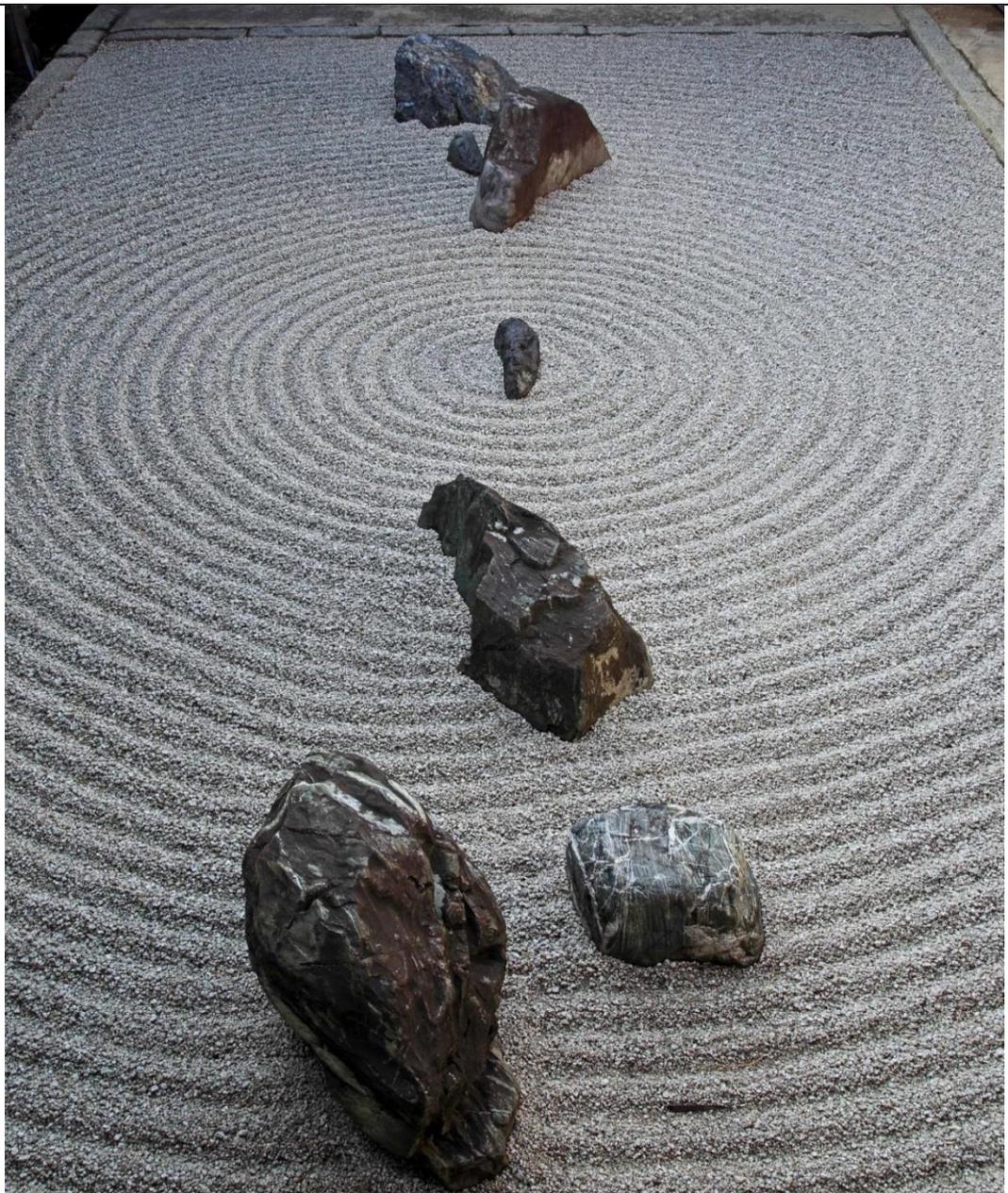
### Tokai-an Temple

Edo Period

(AD1814)

Kyoto City Ukyoku

No Permission



厳粛で静謐な抽象枯山水庭園の傑作。「江戸時代末期の龍安寺」と云える。

浜松市の特異な様式の4庭:池庭の背後には築山が複数連なる。実相寺以外は池庭なので従来の庭のように護岸石組はあるが、特異な点は築山上にも石組がされていることである。池庭なので護岸を石組することは、やむを得ないが、背後の築山上への石組の造形は、護岸機能、鶴島、亀島、滝からの造形に拘束されない、自由な石組が可能になった。実相寺を見ればより明確だ。【参照:萬福寺(21P)】

**GardenNo57-1**

摩訶耶寺

**Makaya-ji Temple**

Edo Period

Shizuoka Pref.

Hamamatsu City

Tel : 053-525-0027



庭に向かって手前に大きな石組があり、池の奥には順次小さくなる築山が3つある遠近法手法



左出島から遠近法効果の築山石組を見る



出島には亀島状に生まれ、奥に鶴島がある

**GardenNo57-2/3**

大福寺/龍潭寺

**Daifuku-ji Temple**

**Ryotan-ji Temple**

Edo Period

Hamamatsu City

Tel: 053-525-0278

Tel: 053-542-0480



大福寺:大きな築山と出島上にも石組がある



龍潭寺:石組みが、つつじに覆われ残念だ

**GardenNo57-4**

実相寺

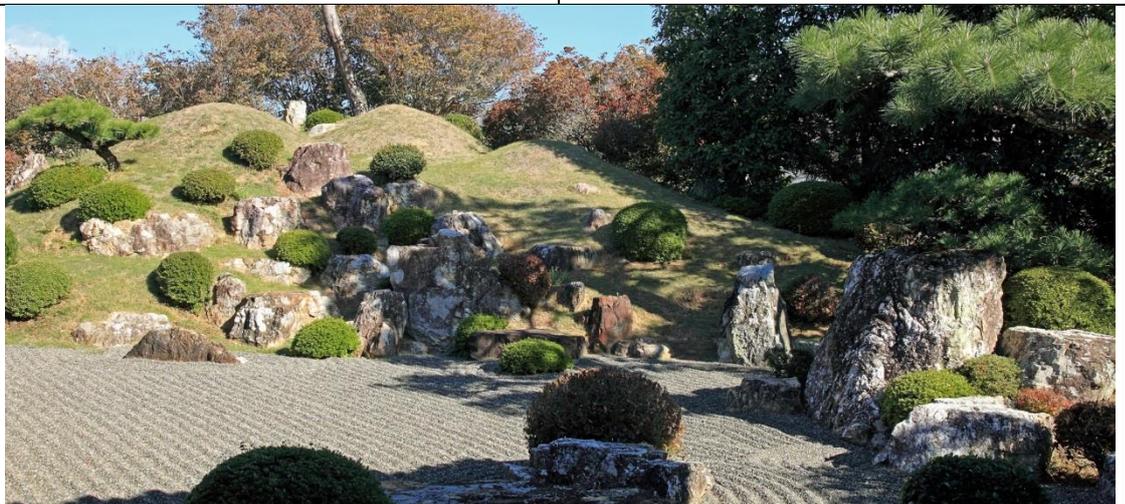
**Jisso-ji Temple**

Edo Period

Shizuoka Pref.

Hamamatsu City

Tel:053-542-0601



枯山水庭園なので護岸石組は不要で、築山上に自由な石組。

## Garden No58

百瀬家

Momose-ke  
Family

Edo Period

Nagano Pref.

Matsumoto City

No Permission



横長の大きな築山があり、左右に白い石で組まれた枯滝がある。築山部には蓬莱連山や特徴的な三尊石組みがある。

左側の石組みは龍門瀑風の堅固な石組である。特に右側の石は強く傾斜して存在感がある。



右側の滝は変化のある自由な抽象画を見る思いだ。一方、築山頂部の木の背後に見える三尊石組は主石が突出した形の秀逸な手法だ。



築山両端にある枯滝



築山には蓬莱連山と特異な三尊石

# 1 Japanese Garden : Best 100 (58+42)

## 1.1 Classic Garden : Best 58

## 1.2 Modern Garden : BEST42

### 1.2.1 Mirei Shigemori(三玲 重森): Best 35 gardens

重森三玲の庭園は特徴別に①～④に区分した。

- ① Japanese Abstract Dry Garden: 石組のみで構成され、余白の多い抽象庭園で余韻のある庭。
- ② Space Constitution Beauty Garden: 高密度の石組みを行い、石相互の関係による感動を与える庭。
- ③ Geometrical Garden: 石組は少なく、直線・屈曲線・曲線・曲面・色彩を主体にした庭。  
(日本古来の琳派やヨーロッパ抽象主義の影響)
- ④ Tea Ceremony Garden: 重森は茶室の庭のみならず、茶室や書院も作る事の出来る稀な作家だ。  
(書院の襖に描かれた絵画を三次元化すると、上記③になる)

### 1.2.2 他の現代庭園 : BEST 7 gardens

- ① Jihei Ogawa(治兵衛 小川) (1860～1933)
- ② Kinsaku Nakai(中根 金作) (1917～1995)
- ③ Gakusyo Nabesima(岳生 鍋島) (1913～1969)
- ④ Tadakazu Saitou (忠一 齋藤) (1939ー)
- ⑤ Kanji Nomura (勘治 野村) (1950ー)
- ⑥ Motomi Oguchi (基實 小口) (1947ー)
- ⑦ Yoshio Taniguti (吉生 谷口) (1937ー)

#### 備考)

一箇所の庭園で複数のタイプの異なる庭がある場合(上記①～④の異なる形態の庭がある場合)では庭園 No は同一として、最初に出てくる区分箇所 No に統一した。なお、別区分箇所の庭がある場合は、庭園 No 下に関連 P を記載した。

一方、造形上の関連庭園の記載は写真下のキャプション箇所に掲載した。

## 1.2 Modern Garden: BEST42

### 1・2・1 Mirei Shigemori(三玲 重森): Best 35 gardens

#### ① Japanese Abstract Dry Garden (8Gardens) : 石組のみで構成され余白の多い抽象枯山水庭園



四神仙島の石組(方丈・蓬莱・瀛州・壺梁)。枯山水のため護岸が不要で造形本意の石組



立石と横石による空間構成は禅の精神を抽象的に表した重森の出世作。

古来の石組みは池泉庭園のために、護岸のための石組みが主体であったが、この庭は水のない枯山水庭園のため、護岸構成から自由になり、造形性を主体に表現した革新的な創作庭園。



手前には厳しい石組みがあるが、奥には柔らかな苔の造形で好対照。

### Garden No59 (See 74,75 P)

東福寺

Tofuku-ji Temple

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1939)

Kyoto City

Higasiyamaku

Tel:075-561-0087

## Garden No60

村上家

Murakami-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1949)

Hyogo Pref.

Nishiwaki City

No Permission



平地の庭であるが石組を幾層にもして、立体造形性を与えている。

庭のテーマは蓬萊山石組（左）と龍門瀑石組（右奥）。

考察) 鎌倉時代以降の立体造形は山畔の傾斜地に石組して達成していた。しかし、現代においては山畔の傾斜地を確保することは困難である。重森は平坦部でも立体造形を確保するために、石組を幾層にもして、立体造形を達成した。

## Garden No61

小倉家

Ogura-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1951)

Okayama Pref.

Kibityuotyo

No Permission



庭園の背後には美しい自然がそのまま残っている。一方、板塀の内側には中国の道教思想に由来する仙人の済む島々が海洋に浮かんでいる。自然と人工の造形を拮抗させ、人工の造形を際立たせた借景の庭。

## Garden No62

(See 66,77 P)

前垣家

Maegaki-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1955)

Hiroshima Pref.

Higashi-hiroshima

City

No Permission



たった三石による壺庭であるが、重森の最高傑作だ。この造形の特徴は

- ・何ものをも象徴していない完全な抽象造形だ。
- ・稜線の鋭い石と欠損部のある石の選択がこの庭を不朽の名作にしている。
- ・三角錐状の尖った石同士は関連させて直角に置かれ、一方、動物の様な石はあらぬ方向に行くようで、行かないような不思議な感じだ。



夕陽が杉の塀を照らすと、その反射光が鉄分を含んだ石を染めあげる。

## Garden No63

瑞峯院

Zuiho-in Temple

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1961)

Kyoto City Kitaku

Tel:075-491-1454



重森の理想である右上がりの造形を作ることが出来た。

テーマは禅宗の聖典「碧巖録」独座大雄による。一人岸壁で修行していると、荒波や強風、煩惱が修行者に向かって来る。始めは歯を食い縛っていたが、暫くすると「自ずと無心の境地に達していることを自覚する」を象徴したのだろうか。

## Garden No64

興禅寺

Kouzen-ji Temple

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1963)

Nagano Pref.

Kisofukushima5659

Tel:0264-22-2428



背後には大自然の山並みと田舎の風景がある。一方壁の中には人工の造形である。この造形は自然を写してはいるが、単なる自然の写しではなく、重森の心象を通して作られた第二の自然、超自然である。木曾谷にたなびく雲海から霊峰が見える姿を象徴したであろうか。【See 瑞応院(79P)、四天王寺学園(79P)】



横から見た石組みと雲紋。



テーマは庵名が「龍吟庵」であるため、龍が黒雲を呼び起こし、海中から左回りに湧き上がってくる様を象徴している。



龍の頭と角の石組み。重森は「龍の頭を見ながら廊下を歩くと、龍が動くように錯覚する」と記している。なお、重森はこの他に遠近法、逆遠近法などの錯覚を利用した石組を行っている。



大明国師の幼少時代の説話を視覚化(病の国師を守る犬と襲い掛かる6頭の狼)

## Garden No65

龍吟庵

Ryogin-an Temple

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1964)

Kyoto City

Higasiyamaku

Tel:075-561-0087

Reserve

**Garden No66  
(See 72,83 P)**

漢陽寺

Kanyo-ji Temple

M. Shigemori (1896~1975)

(AD 1969)

Yamaguchi Pref.

Shunan City

Tel:0834-68-2010



地蔵菩薩が童と輪になって遊んでいる姿を象徴した造形。この庭は「四方面」になり作者にとっては作りにくいテーマであるが、重森は各石を左に傾けて輪舞の造形にし、永久に舞い続けるようにした。



夕陽に浮かぶ「地蔵遊戯の庭」・歩廊の奥には「蓬萊の庭」がある。

# 1 Japanese Garden : 100 (58+42)

## 1.2.1 Modern Garden(Mirei Shigemori) : Best 35 (8+12+25+9)

重森三玲の多様化庭園を①～④に区分したが、以下に②を示す。

### ② Space Constitution Beauty Garden (Garden No67～No78) 12 Gardens

- ・ 石組みは何かを象徴しているか、または抽象的である。
- ・ 比較的巨石の石組間に関連性があり、全体に一体感がある。
- ・ 要所々々に大きな石や目を引く形の石があり、それらの石が有機的に繋がった空間がある。
- ・ 石組の造形は胸に迫る迫力がある。



中央の大將陣を 8 つの陣形が守るように配置している。周辺の陣形は互いに独立しているが、互いは兄弟であり中央の大將陣とは親子関係である。各石組みは分散していながら統合しているのは、テーマの選択による。石組間を繋ぐ屈曲線はヨーロッパ抽象主義の影響があると考えられる。しかし、日本古来の石組とは違和感なく調和している。



#### 鳥陣越しに大將陣や蛇陣を望む重厚な石組み

手前の陣を見ながら周遊すると、近景、中景、遠景にある石組みの形成する立体造形が連続的に変化する。このような多視点の庭は他には殆どなく、その意味でも重森の傑作庭園である。

### Garden No67

(See 77 P)

岸和田城

Kishiwada-jyo Castle

M.Shigemori(1896~1975)

(AD1953)

Osaka Pref.

Kishiwada City

Tel: 0724-31-3251

## Garden No68

西禅院

Saizen-in Temple

M. Shigemori (1896~1975)

(AD1951)

Wakayama Pref.

Koya-machi Town

Tel: 0736-56-2411

Reserve



狭い場所に 10 個の島があり、各々に石組みがある。そのため視点をずらせば造形は一変する。

## Garden No62

(See 61,77 P)

前垣家

Maegaki-ke Family

M. Shigemori (1896~1975)

(AD1955)

Hiroshima Pref.

Higashi-hiroshima

City

No Permission



中央の小さな石が縦と横に組まれた造形は石組みの手本と云える。

その理由は

- ・欠損部のある2石の横石の選択 (重森は施主所有の山で何度も石を探した)
- ・シャープな切り口や欠損部のある4本の立石の選択
- ・手前にある小さな石は庭に奥行きを与え、背後の石を大きく見せる逆遠近法効果
- ・背後の巨石の石組は既存の平凡な石であるが、そこに手前にある尖った石と類似の石を入れることで、手前の造形と関連が出来、全体の一体感が構成される。



中心部拡大すると重森の石の選択眼の高さと石組の妙が解る

## Garden No69

(See 79 P)

瑞応院

Zuio-in Temple

M.Shigemori(1896~1975)

(AD1956)

Shiga Pref.

Otsu City

Tel:0775-78-0232

Reserve



中央の阿弥陀如来と菩薩や眷属が「臨終に間に合うように雲に乗って救済に来る物語」を視覚化した造形である。自由に組まれた石組みと隆起するする雲紋が躍動する造形で示されている。

手前に観音菩薩と勢至菩薩の立石があるため、書院を移動すると背後の石組みが一斉に動き出す。重森はこのように錯覚を応用して庭園を作った。

## Garden No70

岡本家

Okamoto-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1957)

Ehime Pref.

Saijyo City

No Permission



有名な伊予の青石で自由に組まれた石組は、重森が瞬間の感性に従って一気呵成に作ったのであろう。見るものに爽快感を与える。

## Garden No71

織田家

Orita-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD1957)

Ehime Pref.

Saijyo City

No Permission



縦と横の巨石が構成する骨格を埋めるように、やや小さめの石が林立している。個人庭園でこのような雄大で重厚かつ変化に富み、類型的でない庭である。一方、石組みの四周には棒石を縦横に編み込んだ繊細な模様が美しい。

## Garden No72

(See 78,89 P)

村上家

Murakami-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1959)

Shimane Pref.

Yoshiga Town

No Permission



池庭の中央には近代的な彫刻のような鶴島(左奥)がある、一方亀島(右)と蓬莱山(中央松の背後)には伝統的な石組をしている。重森は基本的には自分の選択した石でのみ作庭した。しかし当庭は既存の庭石を使ったのであるが、その悩みを著書の中で以下のように記している「そうした制約の中で、懸命の創作を続けることが、作者に課せられた芸術上の任務であると自覚して努力せざるを得なかった。……何分多数の石組を用いた関係で千差万別であり、三尊手法や、三尊連続手法、または立石と横石の様々な手法など、あらゆる手法を駆使した。」



個人邸庭園でこのような豪華絢爛な庭は他にない。広大な庭には巨大な青石が林立している。中央には須弥山を思わせる石組みがあり、その背後には二列の巨石群が山脈のように聳えている。一方、繊細で斬新な露地や切石の延段、竹垣、さらに邸宅の軒下には洲浜形の敷石が敷かれるなど、重森のすべての造形が備わっている。

## Garden No73

(See 90,91)

小河家

**Kokawa-ke Family**

**M. Shigemori(1896~1975)**

(AD 1960)

Shimane Pref.

Masuda City

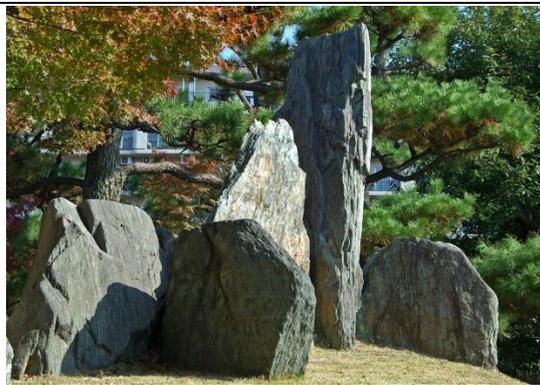
No Permission



左側石橋越しに二列の巨石群をみる。なお、書院の襖絵や繊細な露地のデザインも他に類型が無い創作作品である。



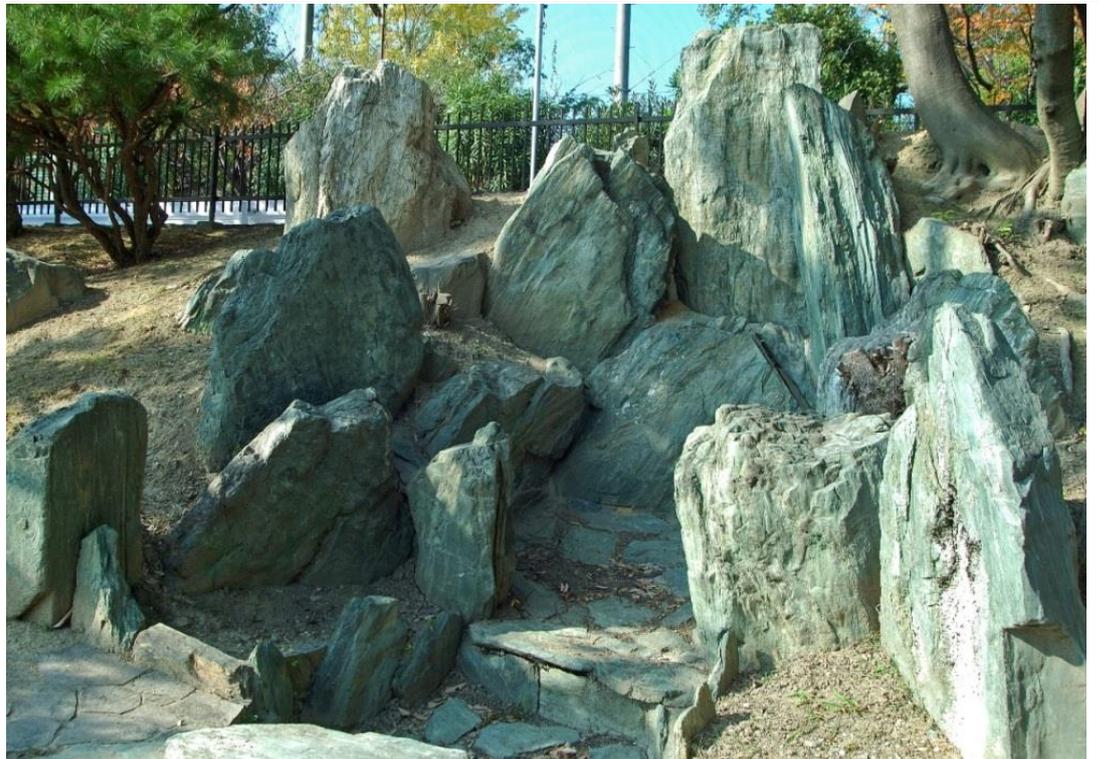
右側石橋越しに二列の石組を見る



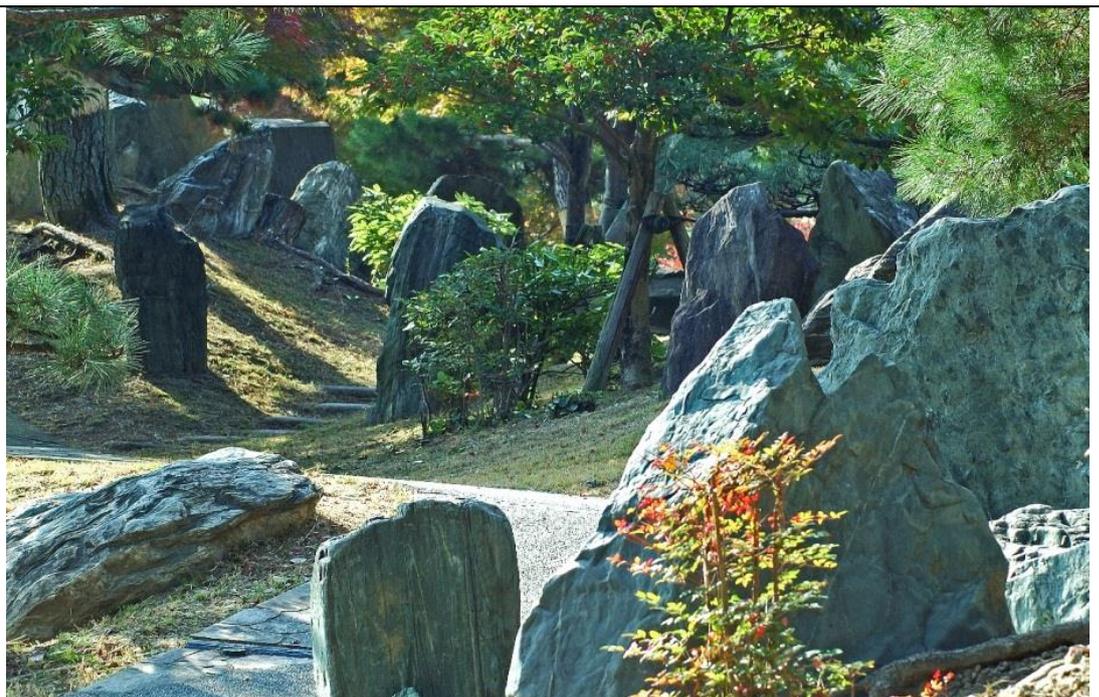
横から見ると躍動した石組み



正面から見ると厳格な石組み



公園の池の周辺にある滝石組は「龍門瀑」の様な象徴造形ではなく、自然の滝の景色でもない。重森の心象を反映した感性に基づいて作った抽象的石組。



沿路を周遊すると、左右の築山にある巨石群の造形が楽しい景色だ。型にはまった石組ではなく、順次瞬間的な感性に従って石組した様子が解る。

**Garden No74**  
香里団地公園  
**Koridanchi**  
-Koen Park  
**M.Shigemori(1896~1975)**  
**(AD 1961)**  
Osaka Pref.  
Hirakata City  
Tel:072-841-1221  
**春秋限定公開**

**Garden No75**

某家

**Certain Family**

**M.Shigemori(1896~1975)**

**(AD 1968)**

No Permission



4列に巨石の配石はフランスのカルナックにある直線状列石(アリニューマン)のようで、書院を移動すると造形が変化する。建物の反対側には幾何学模様の斬新な庭もある。

**Garden No76**

**(See 94 P)**

旧重森家

**Kyu-Shigemori-ke**

**Family**

**M.Shigemori(1896~1975)**

**(AD 1970)**

Kyoto City Sakyoku

Tel: 075-761-8776

Reserve



重森の終の棲家の庭だ。彼が33年間生活した場所は道場とも云える研究徒が集まるサロンであった。石組は海洋に浮かぶ神仙島であるが護岸石組が無く「完全なる脱護岸」で造形本意の庭であるである。【See 東福寺 (59P)】



書院から望む庭園

## Garden No77

豊國神社

Hokoku -jinjya

Shrine

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1972)

Osaka City

(Osaka Castle)

Tel:06-6941-0229



15 石の巨石がほぼ三列に配石されている。庭に面したテラスを移動すると、背後の石が見え隠れして造形の変化が楽しめる。



テラスのデザインは太公秀吉が戦場に出る時の旗印である千成瓢箪による

## Garden No66

(See 64,83 P)

漢陽寺

Kanyo-ji Temple

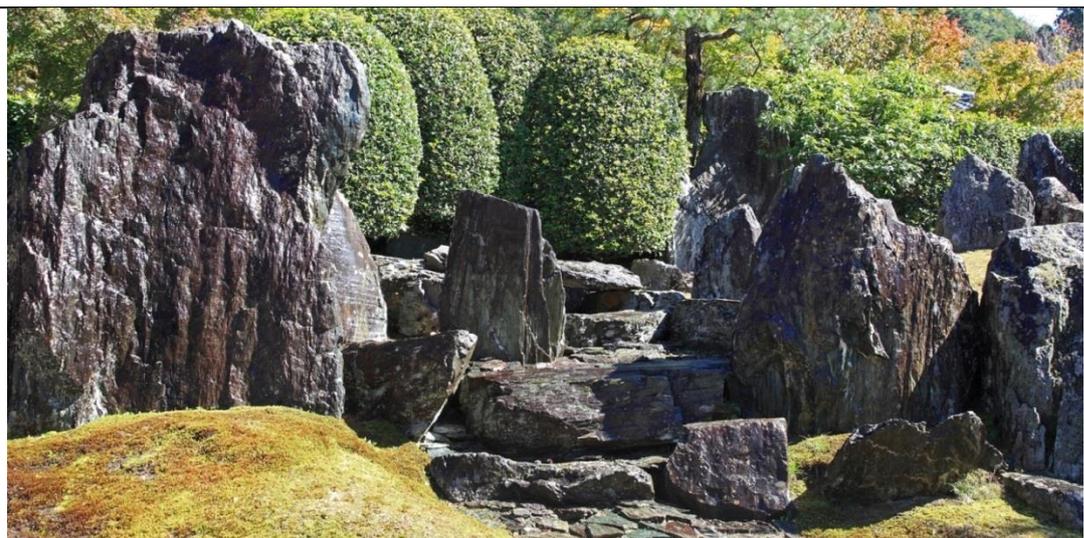
M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1973)

Yamaguchi Pref.

Shunan City

Tel:0834-68-2010



鶴・亀を思わせる巨石の造形の迫力は物凄い。これ等の造形を結んでいるのは石橋であるが、中国の「石梁飛瀑」を象徴している。また背後右の石組みは蓬莱山である。これらの象徴されている物語に捉われずに、人工の造形自身が持つ迫力を感じてほしい。【See 名古屋城 (42P)、粉河寺 (55P)】



この庭園の背後の山は山自体に神が宿る神聖な場所である。  
よってこの庭には山上から神が降臨したと象徴される二本の立石がある。この庭は重森の遺作となる重森の作庭家活動の総決算とも云える芸術品だ。巨石による石組は傾斜した山裾にあり、見るものに巨石が覆いかぶさる感じがする。石組は神秘的で畏怖さえ感じる庭は、神と石と重森が一体となって完成した。重森の到達した境地は、彩色された色セメントは勿論のこと、白砂さえも無い「無技巧の技巧」の庭である。



日本古来の神が宿る磐座（いわくら）  
この庭の神秘と畏怖を感じるには、山頂にある磐座の参拝をお勧めする。

**Garden No78  
(See 84 P)**

松尾大社

**Matsuo-taisya Shrine  
M.Shigemori(1896~1975)  
(AD 1975)**

Kyoto City Nishigyoku  
Tel: 075-871-5016

# 1 Japanese Garden: Best100 (58+42)

## 1.2.1 Modern Garden(Mirei Shigemori) : Best 35 (8+12+12+3)

重森三玲の多様化した庭園を、①～④区分したが、以下に③を示す。

### ③ Geometrical Garden: 曲線・直線・曲面・色彩の庭 (Garden No79～No90) 12 Gardens

従来の日本庭園は石組が主体であった。重森はグラフィックデザイナーの様な鋭い屈曲線や色彩のある造形をつくり、日本庭園の新たな領域を開拓した。重森庭がモダンである源泉だ。

#### Garden No79

春日大社

Kasuga-taisya

Shrine

M. Shigemori (1896~1975)

(AD 1934/1937)

Nara City

No Permission



「芸術の庭なので自然にはない直線にした」と記されている。



間口部に対して極端に奥行の少ない場所に、大きな「ダブル Z」形の稲妻をテーマとした造形にした。このような、超変形な土地にでも興味ある庭を作った。

#### Garden No59-1

(See 59,75)

東福寺

Tofuku-ji Temple

M. Shigemori (1896~1975)

(AD 1939)

Kyoto City

Higasiyamaku

Tel:075-561-0087



苔と切石による格子状の様子は従来の日本庭園には無かった斬新な庭。この切石は「勅使門」に敷かれていたのであるが、そこに庭園が造られたので、不要となった石材を使用して独創的な庭にした。



京都における禅宗は五つの宗派があるが、造形はそれを象徴して五つの小山にした。その手前にある苔と白砂の直線は自然界には無い人工の造形である。重森は庭園は自然のミニチュアを作るのではなく、芸術としての人工物を作るべきとの考えで自然界には無いデザインにした。

**Garden No59-2  
(See 59,75)**

東福寺

Tofuku-ji Temple

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1939)

Kyoto City

Higasiyamaku

Tel:075-561-0087

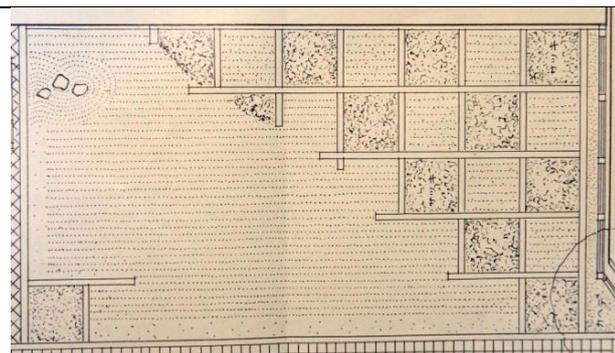


廃材を活かした庭

禅寺に於いては「総て無用なものが無い」との考えに基づいて、廃材置き場にあったこの石で、類例のない新しい造形を生み出した。



西庭の斬新さ(『庭の美』146P参照)



設計図

## Garden No80

光明院

Komyo-in Temple

M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1939)

Kyoto City

Higashiyamaku

Tel:075-561-7317



洲浜を象徴する海岸線は本来雄大な池庭に造られていた。しかし、重森は白砂を敷いた極端に小さな海洋風景を象徴的に作った。美しい曲線の中に自然石を自由に配布した「重森の自然」を再構築した(第二の自然・超自然)。

**【See 5P (Toin)~8P (Motsu-ji Temple)】**



2階よりの俯瞰写真



護岸の栗石は飛沫の象徴

## Garden No81

斧原家

Onohara-ke

Family

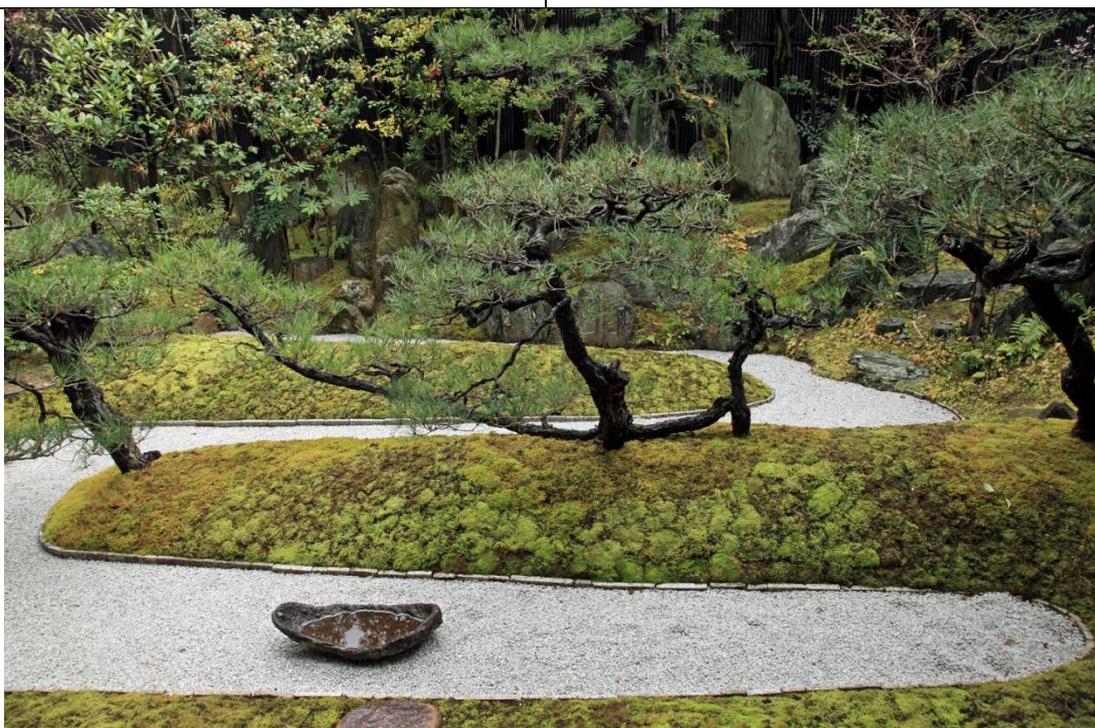
M.Shigemori(1896~1975)

(AD 1940)

Hyogo Pref.

Nishinomiya City

No Permission



狭い土地に大自然の風景を抽象して再現した。重森はこれを芸術と考えた。

**Garden No67  
(See 65 P)**

岸和田城

**Kishiwada-jyo Castle  
M.Shigemori(1896~1975)**

**(AD 1953)**

Osaka Pref.

Kishiwada City

Tel: 0724-31-3251



**天守閣から見る景色**

中央の大將陣周辺には古来の手法で八つの陣が象徴的に組み立てられているが、各陣の置かれている城郭を象徴した基壇の斬新さに目を奪われ、石組みが陳腐にさえ思われる。

**Garden No62  
(See 61,66 P)**

前塚家

**Maegaki-ke Family  
M.Shigemori(1896~1975)**

**(AD1955)**

Hirosima Pref.

Higashi-hiroshima City

No Permission



軒下に作られた洲浜の造形は、もはや自然にはあり得ないデザインに昇華  
この極端なまでの繰り返しパターンの造形は、鑑賞者と庭園の一体感が得られるため、後世の個人宅庭園の基本構造になった（建築と庭園の一体化）。

**Garden No82**

**(See 87 P)**

越智家

**Ochi-ke Family**

**M. Shigemori(1896~1975)**

**(AD1957)**

Ehime Pref.

Saijyo City

No Permission

Note

Photograph Offer

Nobuo Ochi



自然界には存在しない多角形の人工造形の延段を創作した。

**Garden No72**

**(See 68,89 P)**

村上家

**Murakami-ke**

**Family**

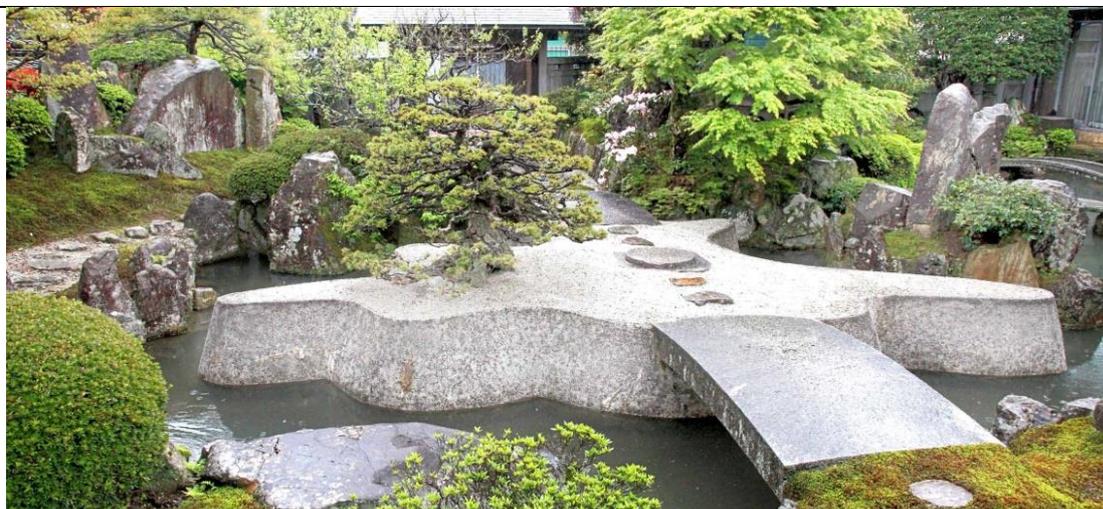
**M. Shigemori(1896~1975)**

**(AD1959)**

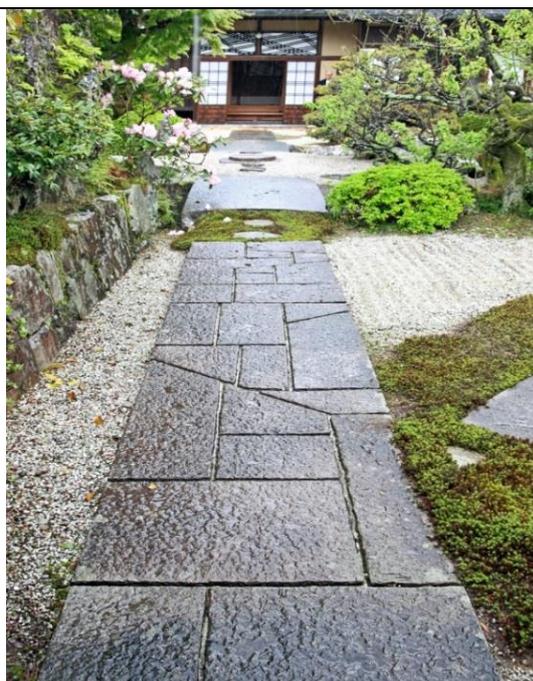
Shimane Pref.

Yoshiga Town

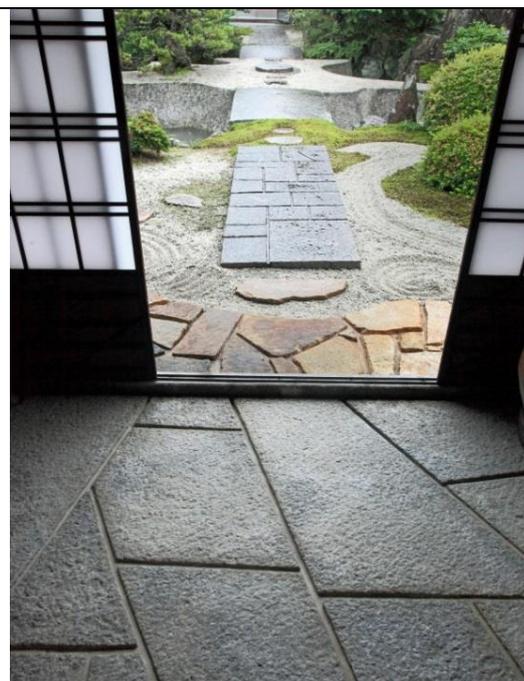
No Permission



中央の白い造形は恰も大理石から掘り出した抽象化された鶴のようである。日本庭園の古来の伝統は自然石による組み合わせであったが、白セメントでの鶴島は新しい試みだ。



門から玄関への切石延段



玄関から門への切石延段

**Garden No83**  
**(See 88 P)**

桑田家

**Kuwata-ke Family**

**M. Shigemori(1896~1975)**  
**(AD1959)**

Hiroshima Pref.

Fukuyama City

No Permission



重森はかつて大戸のレールが敷かれていた 6m の石を見た瞬間に、この石を裏返して、その石の縁を鑿で削り庭の真ん中に敷いた。

**Garden No69**  
**(See 67 P)**

瑞応院

**Zuio-in Tempe**

**M. Shigemori(1896~1975)**  
**(AD1956)**

Shiga Pref.

Out-shi City

No Permission



初めての雲紋模様

従来は洲浜の例が多かったが、ここでは初めて雲紋が創作された。その理由は、臨終の際に釈迦を始めとする仏たちが雲に乗って救済に来ると信じられた「二十五菩薩来迎図」を象徴するための庭であるからだ。

**Garden No84**

四天王寺

**Shitenno-ji-**

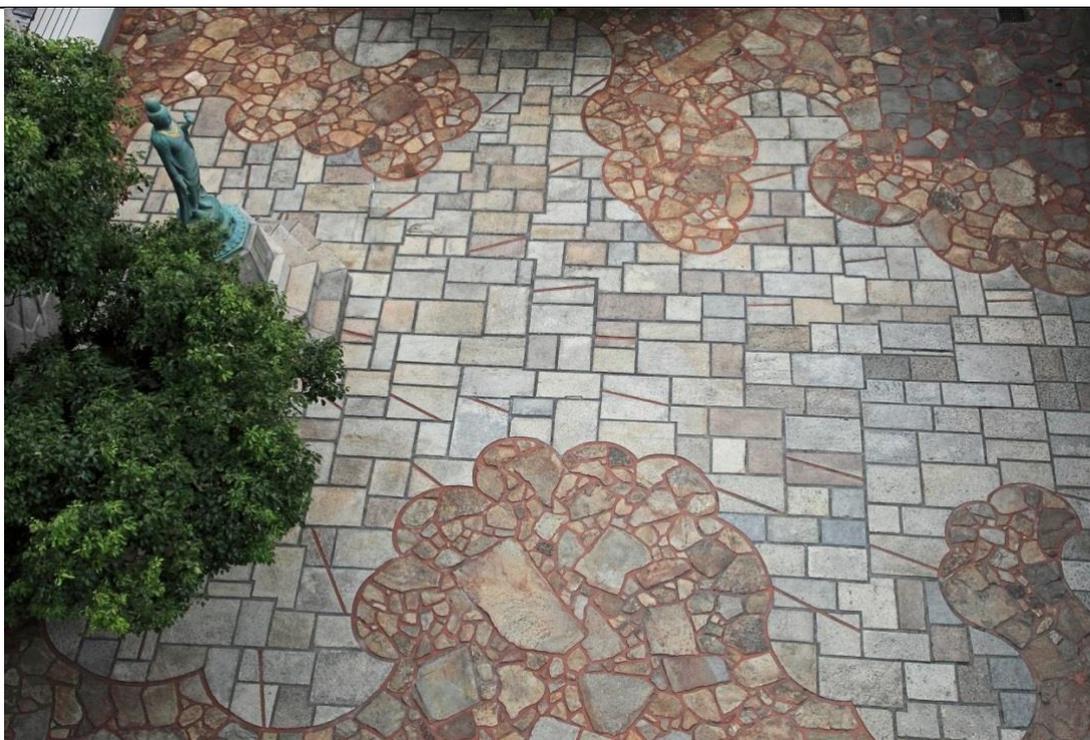
**gakuen School**

**M. Shigemori(1896~1975)**  
**(AD1963)**

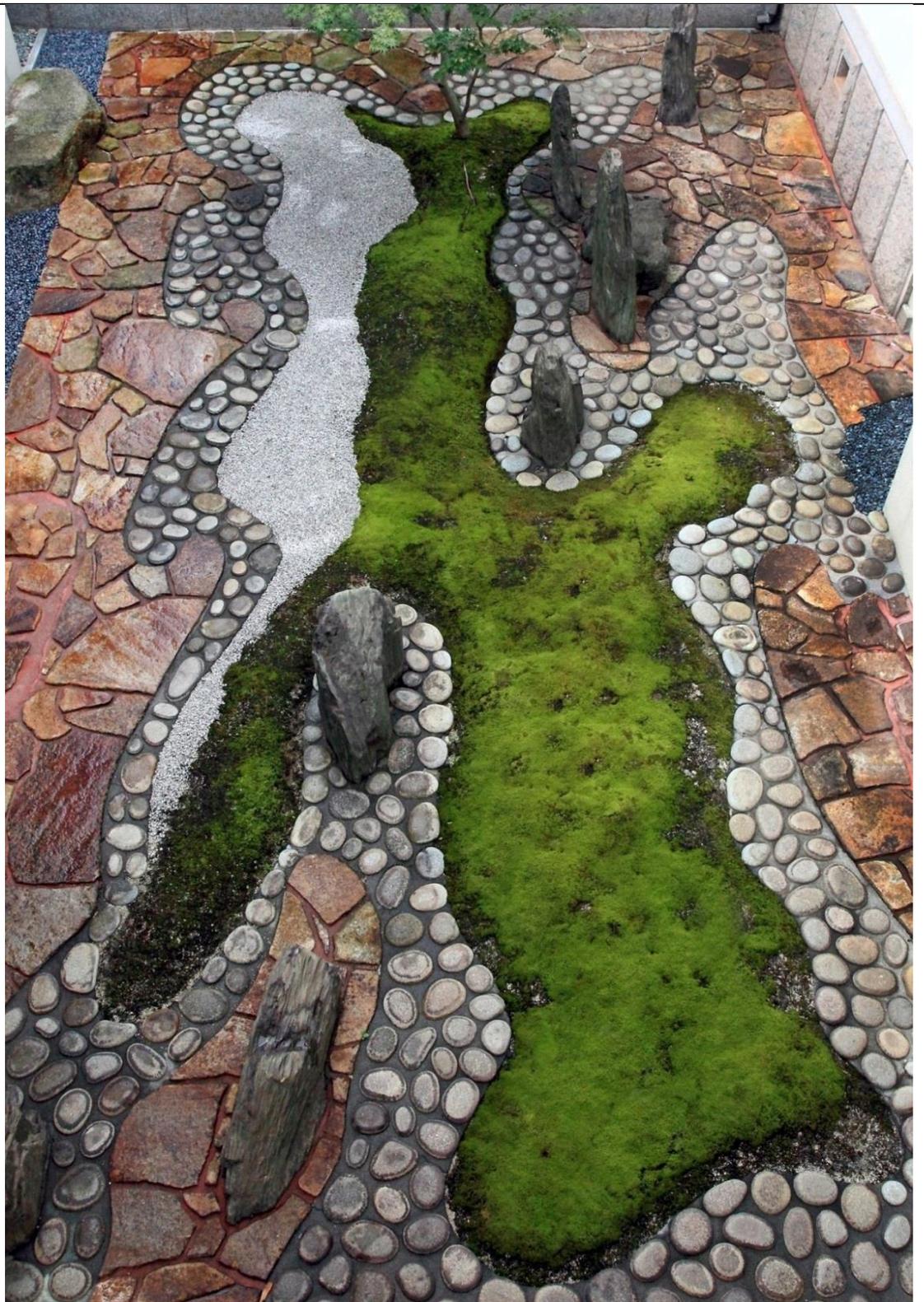
Osaka Pref.

Osaka City

No Permission



学校の校門内にある庭：仏教系の高校のため、校門に「人々を救済のため雲海から出現する観音」を象徴した庭園を作った。日本古来の石組ではなく、雲紋の曲線と観音の出現を示す「光明」の直線による独創的な庭。



## Garden No85

清原家

Kiyohara-ke Family

M. Shigemori (1896~1975)

(AD 1965)

Hyogo Pref.

Ashiya City

No Permission

地上に描いた立体絵画とも云える。対角線上にある石がかろうじて日本庭園の痕跡を示している。苔、円形状の扁平な石や多角形に刻んだ石による三重の洲浜がリズムカルな曲線を描いている。1,2階の各三方向から鑑賞できる。



地上から見た造形

**Garden No86**

住吉神社

**Sumiyoshi-jinja**

**Shrine**

**M.Shigemori(1896~1975)**

(AD 1966)

Hyogo Pref.

Sasayama City

No Permission



石組の庭園と云うよりは、三波の造形が主体になっている。なお、住吉神社は海神を祭っているため海波をテーマとした。



社務所からの全景

**Garden No87**

(See 92 P)

天籟庵

**Tenrai-an Tea Garden**

**M.Shigemori(1896~1975)**

(AD 1967)

Okayama Pref.

Kibityuotyou

Tel:0866-56-7020



神社の神が海神であることに因んだ、ダイナミックな造形が印象的だ。背後の竹垣には天籟庵の「天」の文字が描かれている。

**Garden No88**

旧友琳会館

**Kyu-Yurin-kaikan**

**M.Shigemori(1896~1975)**

(AD 1969)

Okayama Pref.

Kibiyuotyou Town

Tel: 0866-54-1313



友禅染会館の庭を作る為、重森は友禅染の小紋にヒントを得た造形とした。古来の日本庭園からは逸脱していると思えるくらい、飛躍している。



霞形の島の美しい曲線とコントラストとなる直線も重森の意図

**Garden No89-1**

石像寺

**Sekizo-ji Temple**

**M.Shigemori(1896~1975)**

(AD1972)

Hyogo Pref.

Tanba City

Ichijima-machi Town

Tel:0795-86-0153



中国道教思想の「四神相応」思想では、青い龍・白い虎・朱い鳳凰・黒い亀に対応した色で組み石、延段、砂を用いた。色彩に拘った初めての日本庭園。

**Garden No89-2**

石像寺

**Sekizo-ji Temple**

**M.Shigemori**

(1896~1975)

(AD1972)



白い虎、朱い鳳凰



日本神道の神である磐座（いわくら）

**Garden No66**  
**(See 64,72 P)**

漢陽寺

**Kanyo-ji Temple**

**M.Shigemori(1896~1975)**

(AD 1973)

Yamaguchi Pref.

Shunan City

Tel:0834-68-2010



この庭の原型は東福寺の西庭である(AD1939)。34年前の東福寺では狭い場所であったが、庭園に色彩を入れるべきと考えた。しかしツツジの花が咲いた時に緑から赤に変化するだけであったが、この庭はオレンジ色の砂を採用し、広大で多彩化した庭になった。

**Garden No90-1**

福智院

**Fukuchi-in Temple**

**M.Shigemori(1896~1975)**

(AD 1973)

Wakayama Pref.

Koya-machi Town

Tel:0736-56-2021



寺院の宿舎で、鑑賞者は各階の四方にある客室から鑑賞できる。龍安寺のように15石の枯山水であるが、色彩、造形は全く異なり刺激的だ。



新旧のデザインが拮抗しながら調和している。

## Garden No90-2

福智院

Fukuchi-in Temple

M.Shigemori(1896~197

5)

(AD 1973)

Wakayama Pref.

Koya-machi Town

Tel:0736-56-2021



水のある池庭に縁起の良い鶴島、亀島を配した庭を作ることになった。重森は古来の石組による護岸の代わりに、コンクリートに青石を貼った優しい曲線の護岸を創作。

## Garden No78

(See 73 P)

松尾大社

Matsuo-taisya Shrine

M.Shigemori(1896~1975)

(AD1975)

Kyoto Pref.

Kyoto City

Tel:075-871-5016



神社背後の山から流れる聖水を神社の中庭に引き込み、6本の洲浜が入り組んだ曲水の造形を作った。

# 1 Japanese Garden:Best 100 (58+42)

## 1.2 Modern Garden(Mirei Shigemori) : Best 35 (8+12+12+3)

重森三玲の多様化庭園を①～④に区分したが、以下に④を示す。

### ④ Tea Ceremony Garden:(Garden No91～No93) 3 Gardens

露地は茶室に付随した庭の事である。安土桃山時代に始まるがその庭は、市街地にありながら田舎の風情を醸し出すように、侘びた風情であった。しかし、重森は現代の茶会に合うような、茶室、書院、露地にした。

詳細は [2.1 Tea Ceremony Shoin House & Garden](#)

### Creative activity except the garden of Shigemori

石組みの他に重森は多くの新しい試みをした。102～106頁に以下の項目に分けて記載する。

切石の延段・丹波鞍馬石の洲浜模様・陶芸・彫金・水墨画と書

#### Garden No91

井上家

Inoue-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD1940)

Osaka City

No Permission



蹲踞に特化した露地

#### Garden No92-1

増井家

Masui-ke Family

M.Shigemori(1896~1975)

(AD1956)

Kagawa Pref.

Takamatsu City

No Permission



緻密な造形に満たされた露地



中潜りの奥にも新しい露地がある

**Garden No92-2**

増井家

**Masui-ke Family**

**M. Shigemori (1896~1975)**

(AD 1956)

Kagawa Pref.

Takamatsu City

No Permission



斬新なデザインの二重洲浜・四方仏の蹲・変形三尊石組み・モザイク状竹垣



大胆で斬新な襖絵



「蹲踞」(茶室に入る前に手を洗う容器)・「躡り口」(茶室への小さな入口)

**Garden No82**

(See 78P)

越智家

**Ochi-ke Famil**

**M.Shigemori(1896~1975)**

(AD1957)

Ehime Pref.

Saijyo City

No Permission

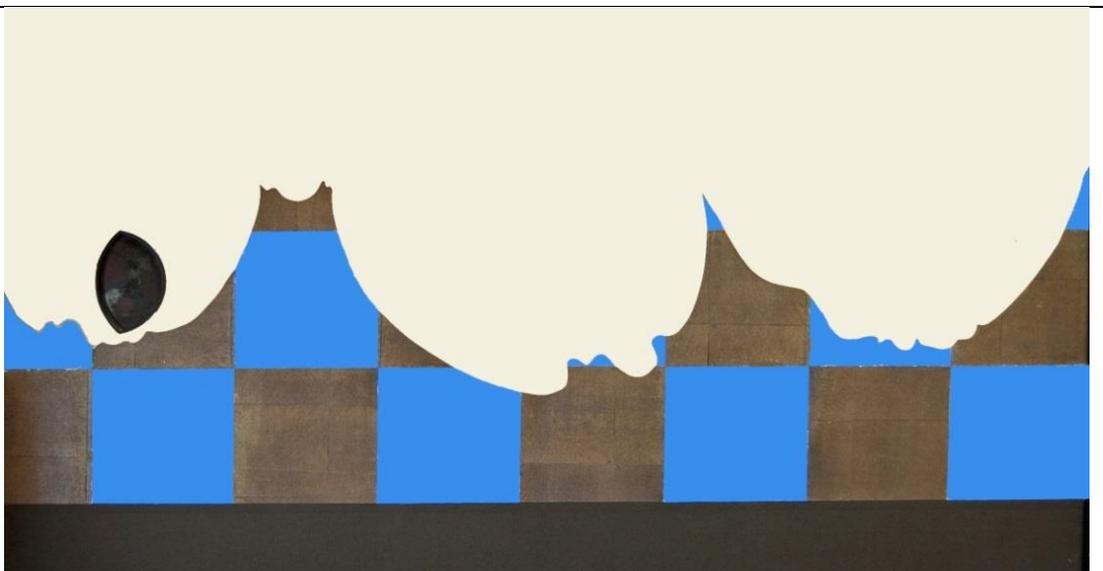
Note

Photograph Offer

Nobuo Ochi



Teahouse garden Isamu Noguchi & Mirei Shigemori



襖には紺と銀の格子模様で抜き取り、白牡丹の花弁が浮き上がる



庭園を貫く長方形の石と交差する白セメントの造形（廊下側が書院）

**Garden No83**  
(See 79P)

桑田家

**Kuwata-ke Family**

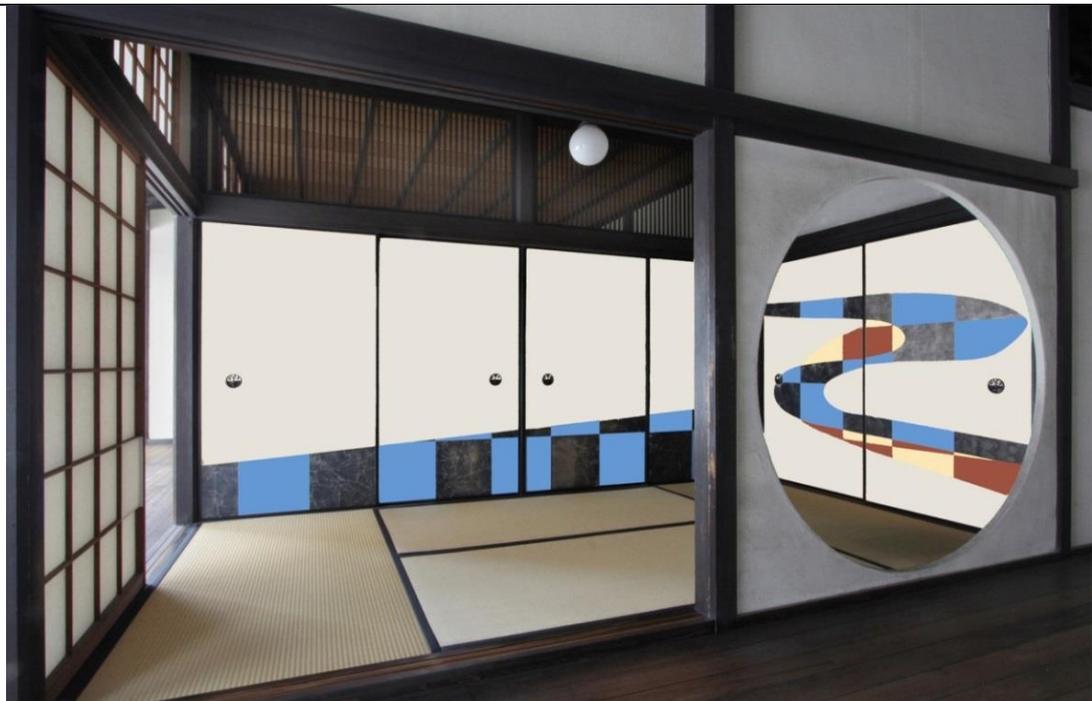
**M. Shigemori (1896~1975)**

(AD1959)

Hiroshima Pref.

Fukuyama City

No Permission



華麗な襖模様



書院（左側よりの名称：附書院・違棚・天袋・床）



掛軸に描かれた露地



露地内を流れる遣水 (See Garden No55,76)



重森の切り絵は晩年のマチスの切り絵の感覚である。  
重森のモダンな庭園はマチスやカンデンスキーの影響が考えられる

**Garden No72**  
**(See 68,78 P)**

村上家

**Murakami-ke Family**  
**M. Shigemori (1896~1975)**  
**(AD1959)**

Shimane Pref.  
Yoshiga Town  
No Permission



「廓然庵」露地：絵画のような造形と色彩の新しい露地のデザイン



「古今亭」露地：新しい露地のデザイン



中門背後の茶室へのアプローチ

**Garden No73 -1**  
**(See 69 P)**  
 小河家  
**Kokawa-ke Family**  
**M. Shigemori (1896~1975)**  
**(AD1960)**  
 Shimane Pref.  
 Masuda City  
 No Permission

**Garden No73-2**

小河家

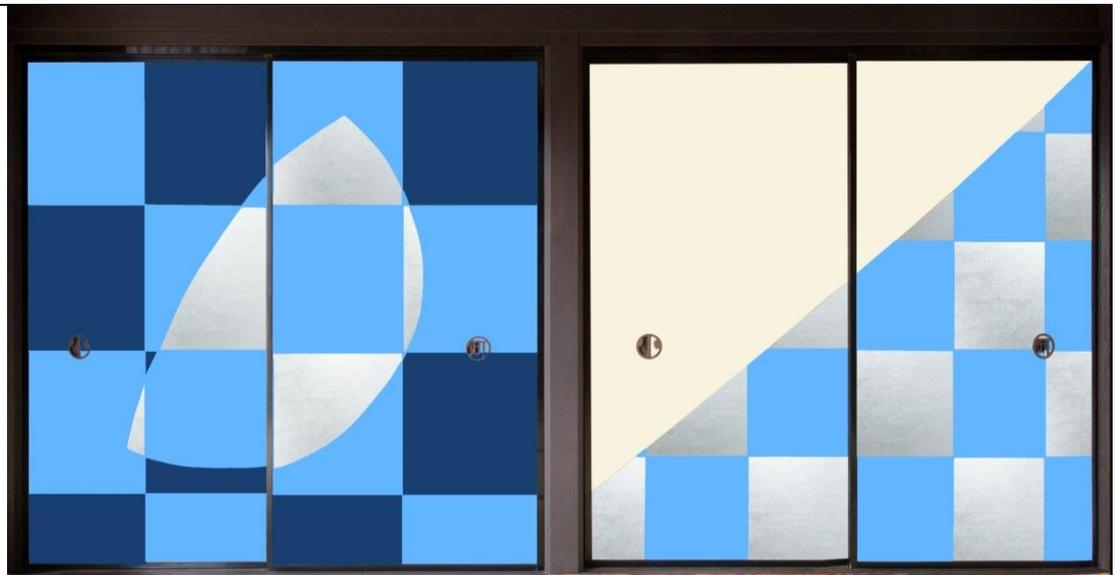
**Kokawa-ke Family**

**M. Shigemori (1896~1975)**  
(AD 1960~1965)

Shimane Pref.

Masuda City

No Permission



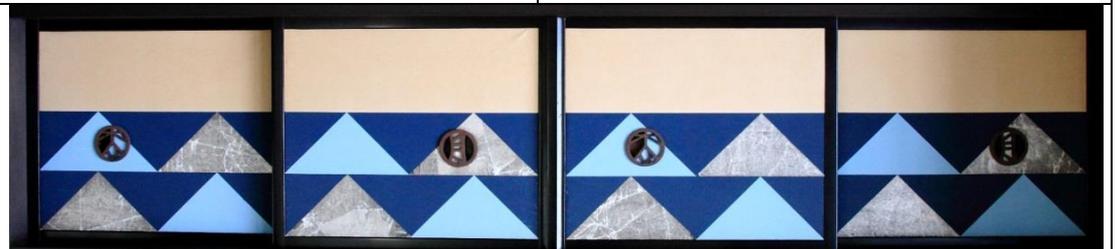
美しい襖絵



引手は「小河」をデザインした⓪



引手は「小河」をデザインした㊦



書院天袋の幾何学模様



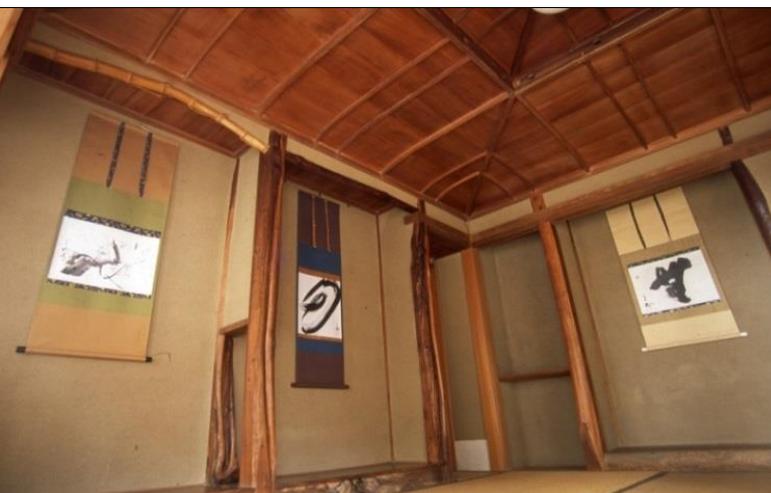
建築と庭園の一体化の手本：軒下の造形が庭園の造形と融合している。



公民館のため、メンテナンスを考え一草一木も無い露地にした



場所が海神の「吉川八幡宮」境内なので、それに因んだ海波と土坡の模様にした。



茶室は重森が18歳の時の設計



敷石

**Garden No87**  
**(See 81 P)**

天籟庵

Tenrai-an

Teahouse

M.Shigemori(1896~1975)

(AD1969)

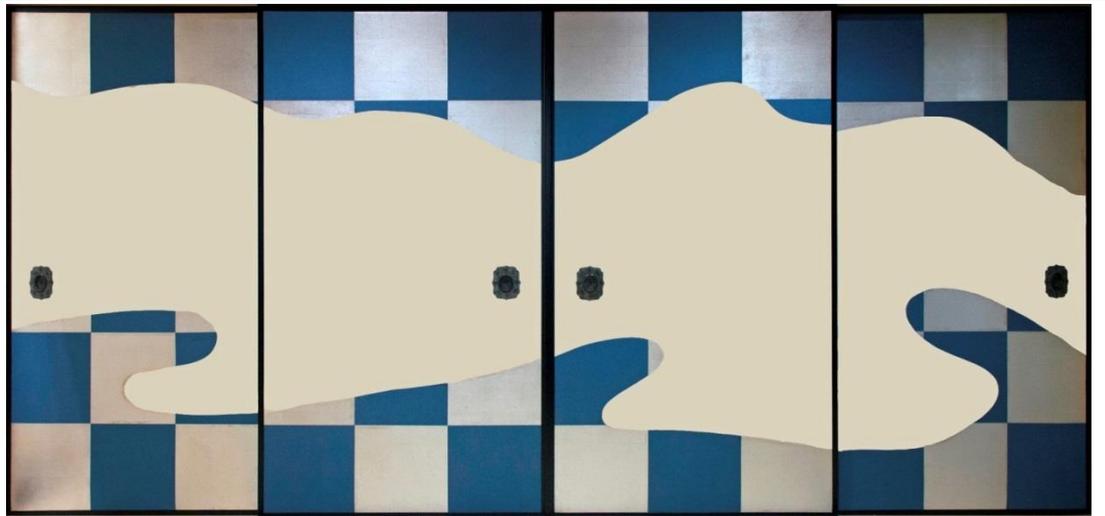
Okayama Pref.

Kibityuo-tyo Town

Tel : 0866-56-7020



現在は 2009 年より岡山県立美術館で書院・襖が復元され、展示されている。



下側の模様は波濤を表している



小襖のデザイン



重森の書院



七宝焼の引手

**Garden No93**

旧北岡家

Kyu-Kitaoka-ke

Family

M.Shigemori(1896~1975)

(1969)

Okayama Pref.

Okayama City

Okayama Museum

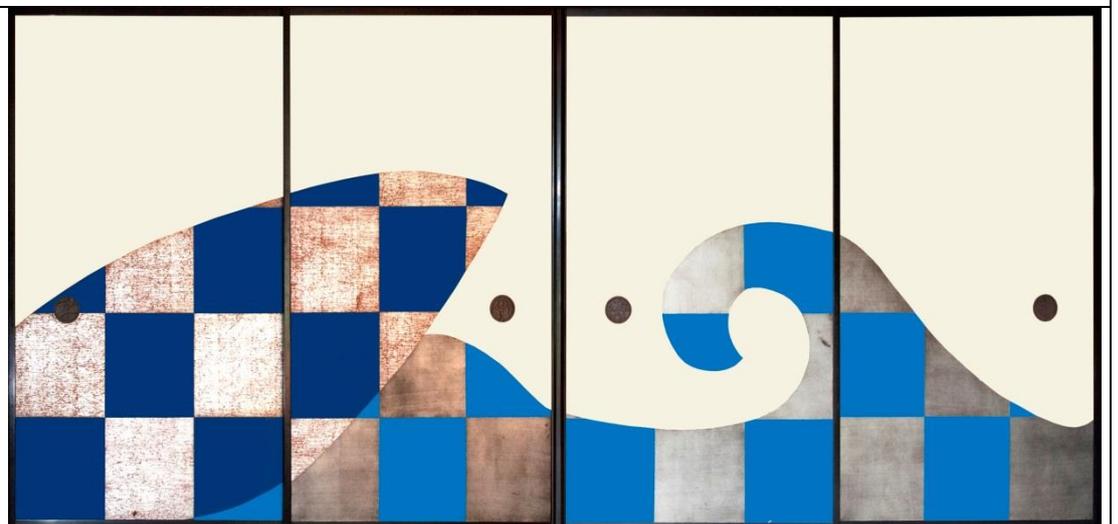
TEL:086-225-4800



好刻庵前の蹲踞と飛び石(See Garden No60)



無字庵と好刻庵の間にある七五三の庭



好刻庵の襖絵

**Garden No76**  
**(See 71 P)**  
 旧重森家  
 Kyu-shigemori-ke  
 Family  
 M.Shigemori(1896~1975)  
 (AD1970)  
 Kyoto Pref.  
 Kyoto City  
 Reserve  
 Tel:075-761-8776

## 1.2.2 他の現代庭園：BEST 7 gardens

重森三玲以外の現代庭園の作庭家 7 名の作品を紹介する。

小川治兵衛・中根金作・鍋島岳生・齋藤忠一・野村勘治・小口基實・谷口吉生の諸氏である。



無鄰菴の名前は山形有朋が長州に立てた草庵が隣家のない閑静な場所であったことから名付けられたという。その後京都の木屋町に別荘を構え、やはり無鄰庵と号した。その後さらに現在地に大きな庭の造営に取り掛かり1896年に完成。

この庭の特徴は、東山の借景と疎水による豊かな水の流れである。全体的には借景を主体とした、穏やかな自然主義的傾向の庭である。

### Garden No 94

無鄰菴

Murin-an

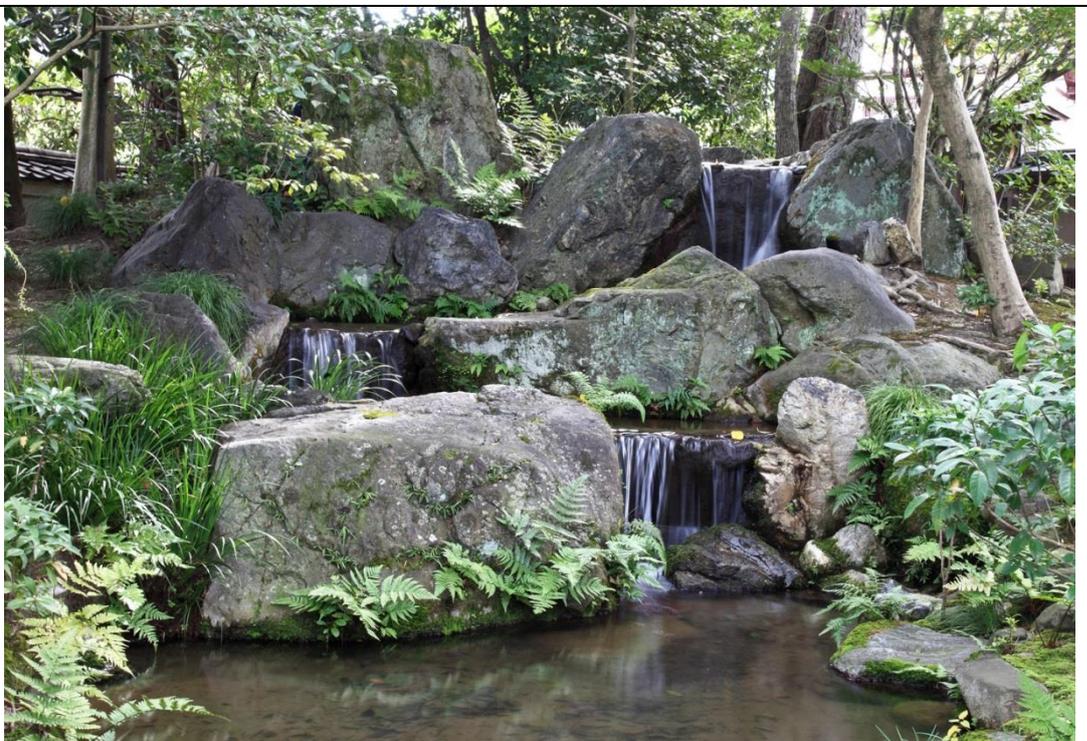
J.Ogawa(1860~1933)

(AD1894)

Kyoto City

Sakyo-ku Nanzen-ji

Tel:075-222-4105



一番奥にある滝は醍醐寺三宝院に倣って作った。三段落としの滝は滝落ち面が右、左、右と三段になっていて、三宝院の滝そっくりの形をしているが

近代日本庭園の祖とも云え、以下の名勝庭園を作った。

無鄰菴・平安神宮・慶雲館・対龍山荘・円山公園・旧古河庭園・清風荘



「枯山水庭」

**Garden No95**

足立美術館

Adachi Museum

K.Nakane(1917~1995)

Shimane Pref.

Yasugi City

Yoshikawa Town

Tel:0854-28-7111



「枯山水庭」の石組部拡大



「白砂青松庭」

『The Journal of Japanese Gardening』では初回の2003~2016年まで連続1位を占めている。



極小の庭であるが存在感のある庭。禅の庭の神髄だ。



**Garden No96**

龍源院

Ryogen-in

Temple

G.Nabeshima

(1913~1969)

(AD 1960)

Kyoto City Kitaku

Tel:075-491-7635

僅か5石の石で約15㎡の空き地に作られた傑作の庭。その理由は石の選択と配置の妙で、互いの造形が緊張関係を生じている。

**Garden No97**

漢陽寺

**Kanyo-ji Temple**

**Tadamazu.Saito**

( )

**(AD ?)**

Yamaguchi Pref.

Shunan City

Tel:0834-68-2010

齋藤忠一

**Garden No98**

中国・大連

野村勘治

**Garden No99**

遠照寺

Onsyo-ji Temple

Motomi

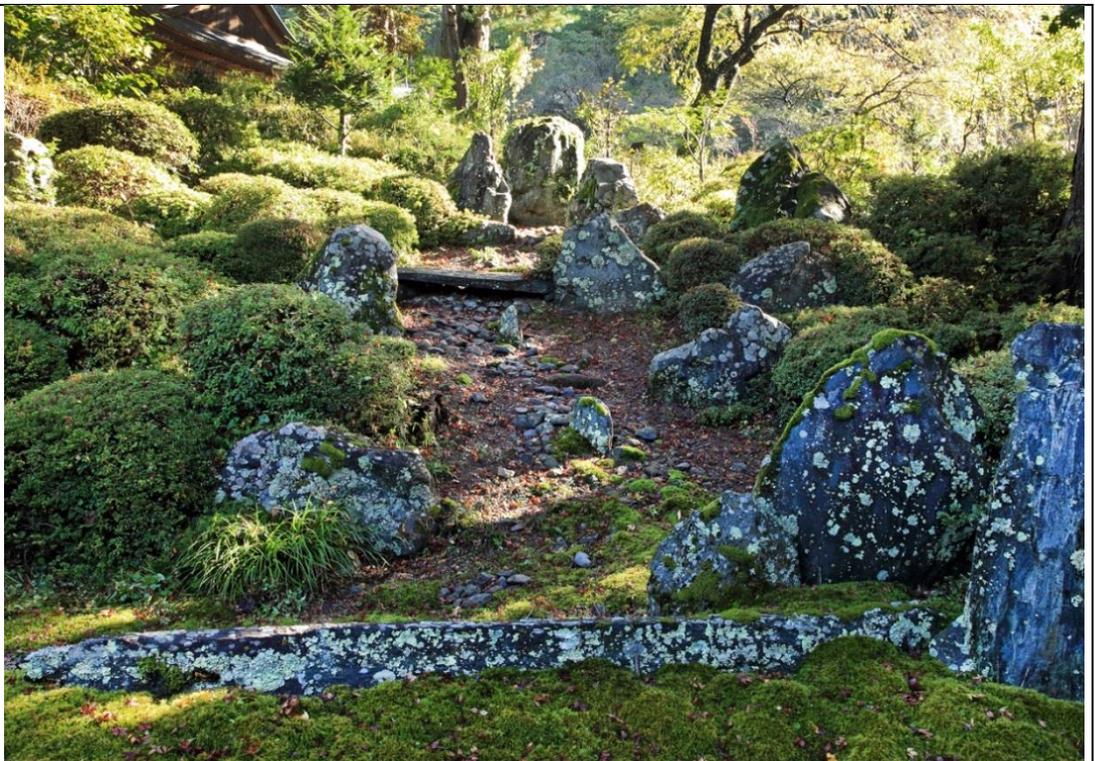
Oguchi(1947-)

(AD 1975)

Nagano Pref.

Takato-machi Town

Tel:0265-94-3799



傾斜した土地を活かした庭の背後から金色の朝日が昇る

本堂脇にある傾斜した場所に、現代の龍門瀑を作った。写真下部の横石は鶴の首と嘴を、二枚の立石は羽を象徴している。なお、栗石を遡上している二匹の鯉魚や鶴島の長い石は廃材を活用した（信州の板葺屋根の押さえ石、鯉幟を立てる基壇石）。



左下の立石が造形に奥行きを出す。



有効な立石



既存の亀島は具象的



ネット情報ですがイメージのみです  
来週にでも金沢に行って、成巽閣とも撮るつもりです

## Garden No100

鈴木大拙館  
谷口吉生



## 参考) 重森の庭園以外の創作活動

石組みの他に重森は多くの新しい試みをした。以下の項目に分けて記載する。

1 切石の延段・2 丹波鞍馬石の洲浜模様・3 竹垣・4 網干模様・5 陶芸・6 彫金・7 水墨画と書



越智家



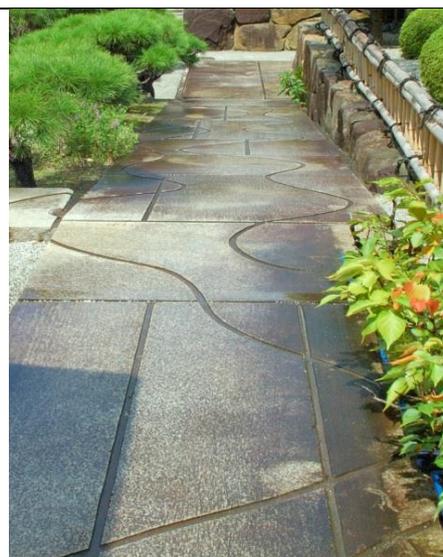
芦田家



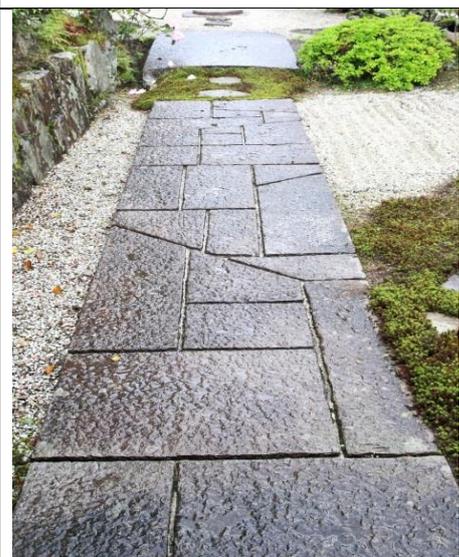
芦田家



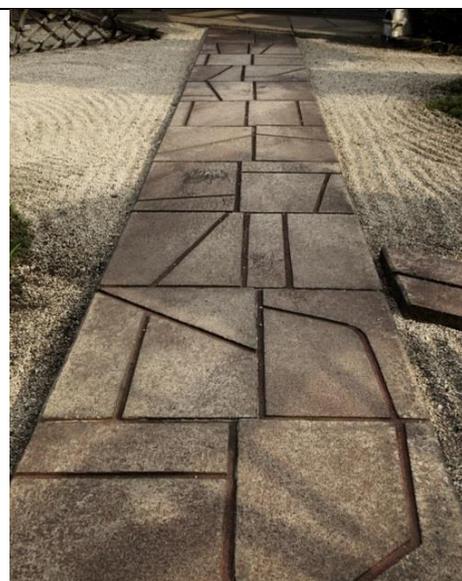
小河家



小林家



村上家



横山家



福智院



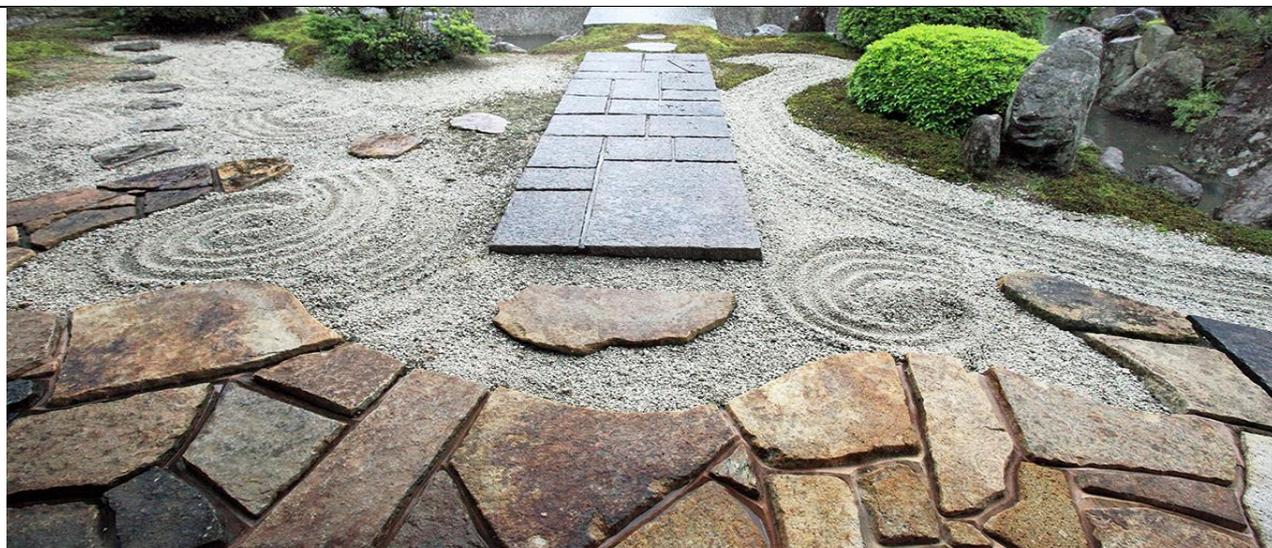
東口家

2 軒下の丹波鞍馬石の洲浜模様は建築と庭園の一体感が得られる

軒下から庭園に繋がる造形として洲浜を作ると、住居と庭園の一体感が得られる。事例は枚挙に暇ない。



前垣家 (AD1955) : 初めての例であるが、以降の庭園に大きな影響を与えた。



村上家 (AD1959) : 玄関から門へのアプローチ



小河家 (AD1960) : 屋敷の全ての軒下にはモザイク状の石による洲浜が取り巻いている。屋敷は恰も海洋に浮かんでいるようだ。

### 3 竹垣



増井家 (AD 1956) : モザイク状の竹垣



石像寺 : テーマの「四神」の文字

### 4 障子の腰の網干模様



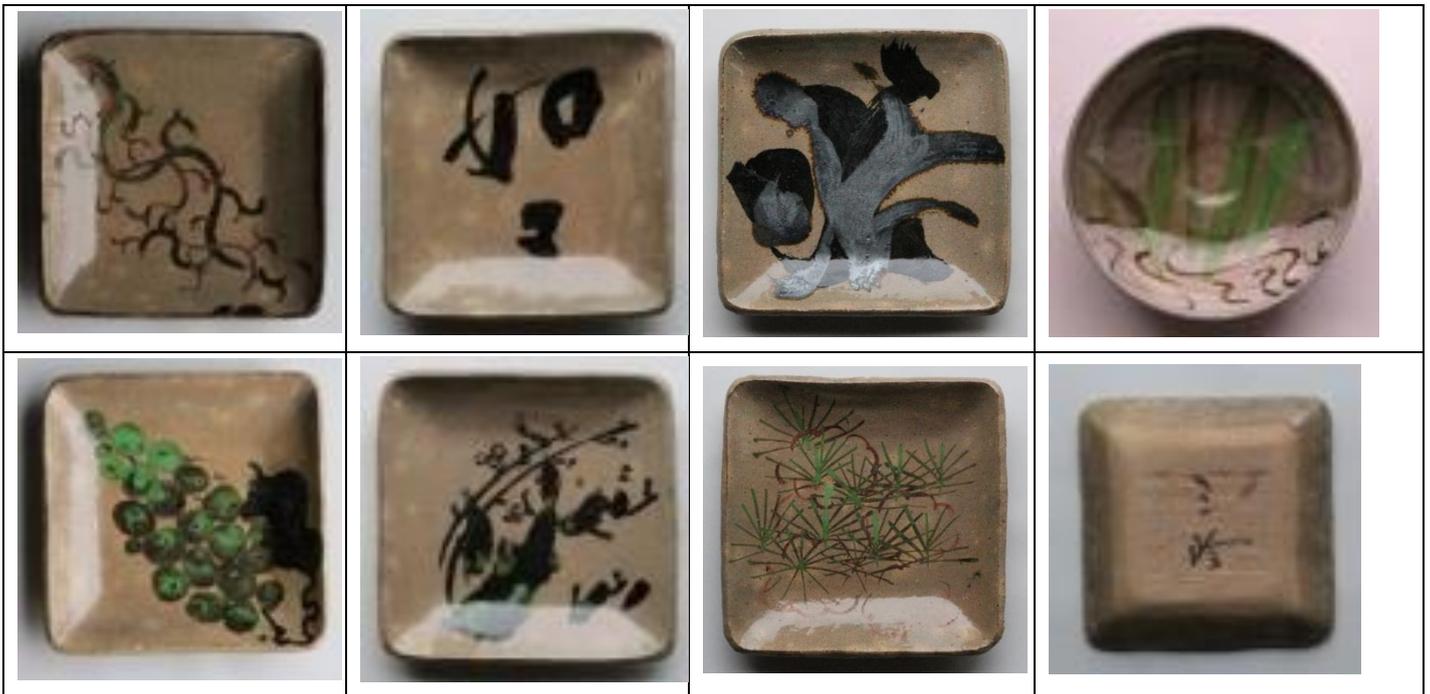
増井家



越智家

### 5 陶芸

岡本家 (福山市) には重森が茶碗や皿に絵付けをした陶器が多くある。なお、重森のサインが裏に記されている。



## 6 彫金

襖絵の引手には各施主に因んだ文字や造形の彫金や、七宝焼きが付けられている。  
重森はデザインには関与しているであろうが、実際に作るのは工芸家であろう。



Masui-ke Family



Masui-ke Family



Ochi-ke Family



Murakami-ke Family



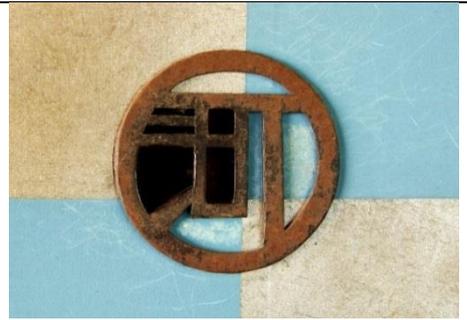
Murakami-ke Family



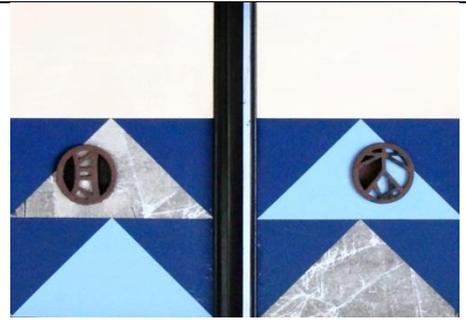
Murakami-ke Family



Kokawa-ke Family



Kokawa-ke Family

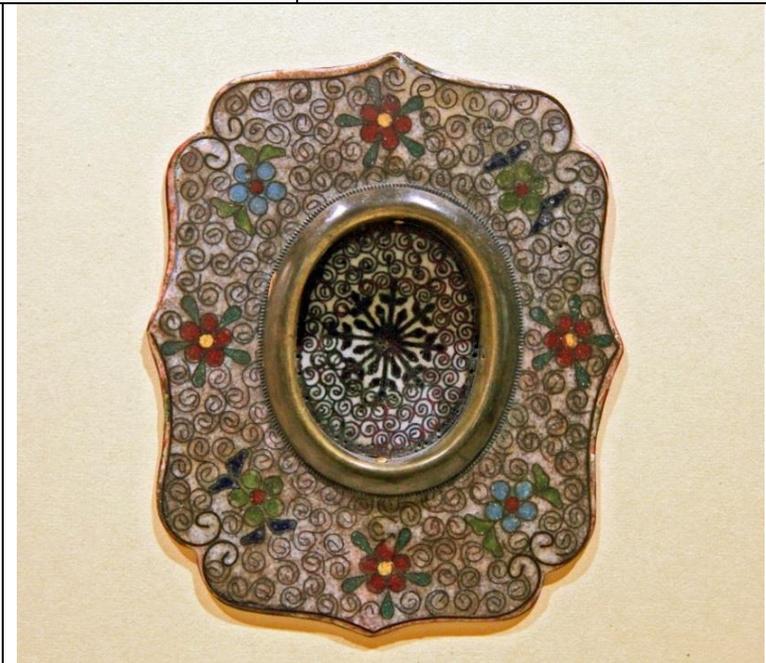


Kokawa-ke Family



Kuwata-ke Family

ハンマーの音が聞こえてくるようだ



Kyu-Kitaoka-ke Family

精緻な七宝焼き

## 7 水墨画と書

書は求められると気軽に書いたが、当意即妙に含蓄のある言葉を書いた。



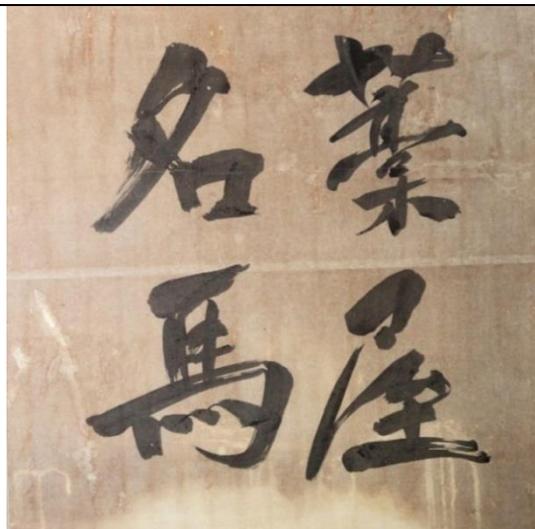
中田家



小林家



Kyu-Shigemori-ke Family



増井家

「家は古いが、住まうは賢婦人」の意



萬福寺

萬寺の庭は「唯一無二」と褒めたたえた。



妙心寺・東海庵